

報道関係者 各位

平成 29 年 6 月 2 日

【照会先】

医政局 歯科保健課 歯科口腔保健推進室

歯科口腔保健専門官 本田 和枝

推進係長 奥田 章子

代表電話 03(5253)1111(内線 2553)

直通電話 03(3595)2205

「平成 28 年歯科疾患実態調査」の結果（概要）を公表します

はちまるにいまる
～8020 達成者は 2 人に 1 人以上で過去最高～

厚生労働省は、このたび、平成 28 年 10 月～11 月に実施した「歯科疾患実態調査」の結果（概要版）を取りまとめましたので、公表します。

この調査は、わが国の歯科保健の状況を把握し、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的としています。また、昭和 32 年から 6 年ごとに実施していましたが、平成 24 年に策定した「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の中間評価にあわせ、今回の調査から調査周期を 5 年に変更しました。

今回の調査結果では、80 歳になっても自分の歯が 20 本以上ある 8020（はちまるにいまる）を達成した人の割合が、前回調査の 40.2%から 51.2%に増加していることなどが分かりました。

厚生労働省は、この調査結果を踏まえ、「8020 運動」を含む歯科口腔保健施策を今後も推進していきます。

<調査期間>平成 28 年 10 月 1 日～11 月 30 日

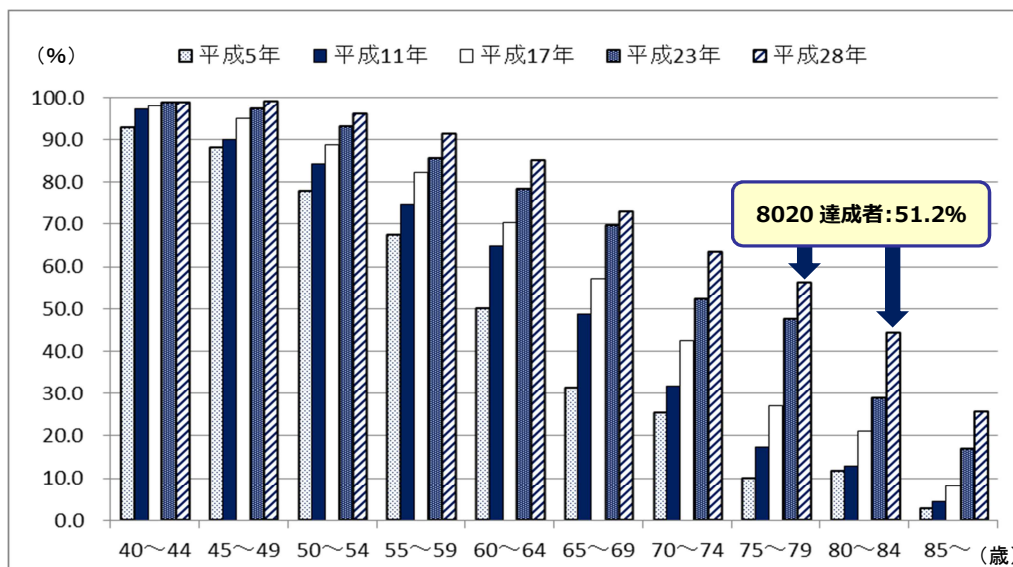
<調査対象>「平成 28 年国民健康・栄養調査」で設定された地区（平成 22 年国勢調査の調査区から層化無作為抽出した全国計 475 地区）からさらに抽出した 150 地区内の満 1 歳以上の世帯員（有効回答数は 6,278 人） ※熊本地震の影響により、熊本県の全域を除く

<調査方法>調査対象地区内の会場で、歯科医師が調査対象者の口腔診査を実施

【調査結果のポイント】※詳細は、別添の概要をご覧ください。

<歯の状況(20 本以上の歯が残っている人の割合)>

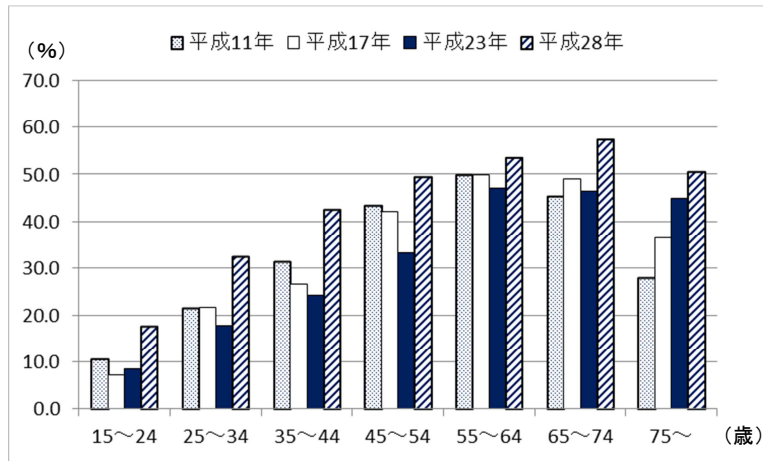
- ・ 8020 達成者(80 歳で 20 本以上の歯が残っている人の割合)は 51.2%であり、平成 23 年の調査結果 40.2%から増加している(8020 達成者は、75 歳以上 85 歳未満の数値から推計)。(18 ページ 表 17、図 17)



6月4日(日)から10日(土)までの1週間は「歯と口の健康週間」です。

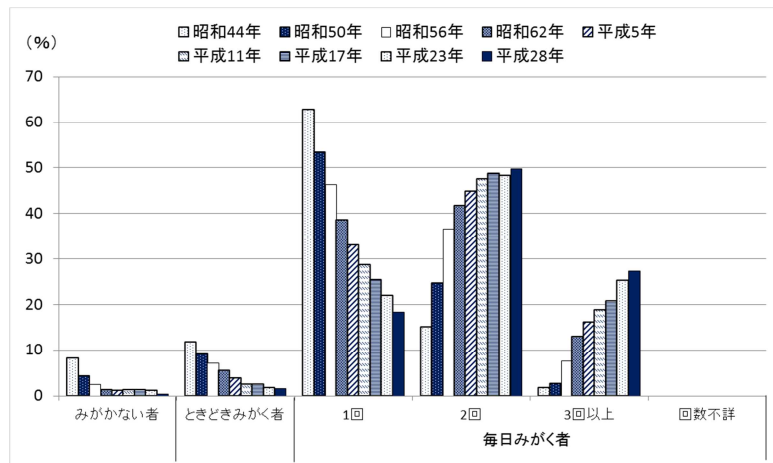
<歯肉の状況>

- ・ 4mm以上の歯周ポケットを持つ人の割合は、高齢になるにつれ増加している(22ページ表21、図21)。



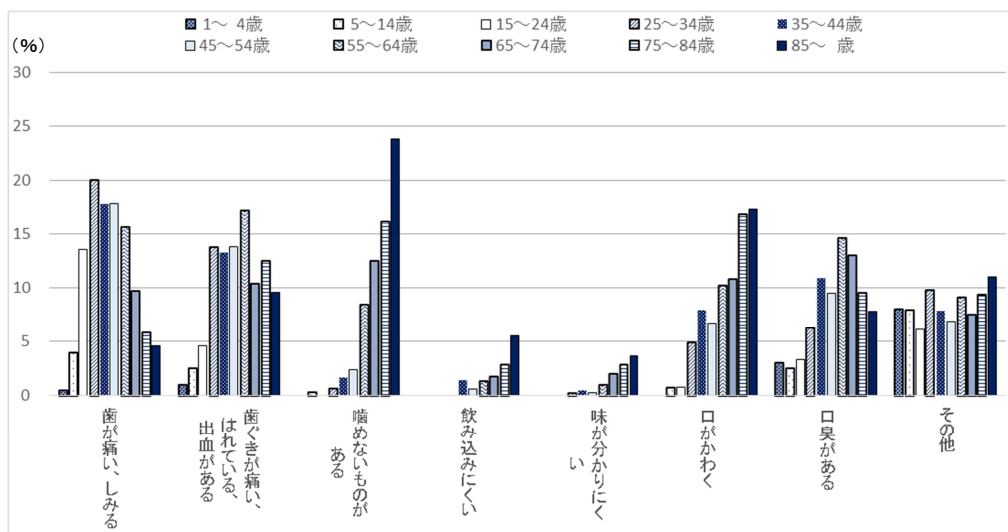
<歯をみがく頻度>

- ・ 1歳以上の人では、毎日歯をみがく人の割合は95.3%であった。また、毎日2回以上歯をみがく人の割合は増加を続けており、平成28年は77.0%であった(31ページ表30、図30)。



<歯や口の状態>

- ・ 歯や口の状態について、「歯が痛い、しみる」または「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した人の割合は、25歳以上65歳未満の年齢階級で高く、「噛めないものがある」と回答した人の割合は、65歳以上75歳未満の年齢階級で10%を超え、その後の年齢階級でも高値を示した。(35ページ表34、図34)。



6月4日(日)から10日(土)までの1週間は「歯と口の健康週間」です。

平成28年 歯科疾患実態調査結果の概要

【目次】

・ 調査の概要	P. 1
・ 結果の概要	P. 2
1. 被調査者数	P. 2
2. 歯の状況	P. 4
1) 乳歯	P. 4
2) 乳歯＋永久歯	P. 8
3) 永久歯	P. 10
[1] う蝕の状況	P. 10
[2] 喪失歯の状況とその補綴状況	P. 15
[3] 現在歯の状況（8020達成者等）	P. 18
3. 歯肉の状況	P. 21
4. 歯列・咬合の状況（12～20歳）	P. 24
5. フッ化物応用の経験（1～14歳）	P. 29
6. 歯をみがく頻度	P. 31
7. 顎関節の状況（6歳以上）	P. 32
8. 歯や口の状態	P. 34
9. 歯や口の清掃状況	P. 35

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項及び健康日本21（第二次）において設定した目標の評価等、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

全国を対象として、平成28年国民健康・栄養調査において設定される地区（平成22年国勢調査の調査区から層化無作為抽出した全国計475地区）からさらに抽出した150地区内の満1歳以上の世帯員を調査客体とする。ただし、熊本地震の影響により、熊本県の全域を除く。

3. 調査の期日

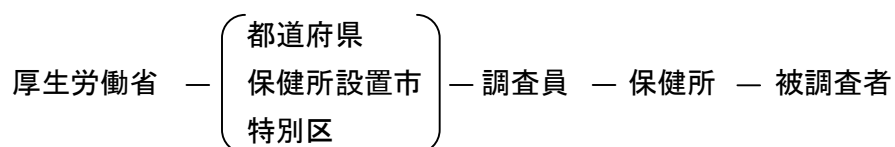
平成28年10月及び11月（国民健康・栄養調査の身体状況調査と共に実施）

4. 主な調査事項

- 1) 性別
- 2) 生年月日
- 3) 歯や口の状態
- 4) 歯をみがく頻度
- 5) 歯や口の清掃状況
- 6) フッ化物応用の経験の有無
- 7) 顎関節の異常
- 8) 歯の状況
- 9) 補綴の状況
- 10) 歯肉の状況
- 11) 歯列・咬合の状況

5. 調査系統

調査系統は次の通りである。



結果の概要

1. 被調査者数

被調査者数は6,278人（男2,868人、女3,410人）であり、口腔診査受診者は3,820人（男1,667人、女2,153人）、質問紙回答のみの者は2,458人（男1,201人、女1,257人）であった（表1・2、図1・2）。表1は過去の調査における被調査者の推移を示したものであり、図1はこのうち口腔診査受診者の推移を示したものである。

表1. 被調査者数の推移（昭和32年（1957年）～平成28年（2016年））^{注1}

	昭和32年 (1957年) (第1回)	昭和38年 (1963年) (第2回)	昭和44年 (1969年) (第3回)	昭和50年 (1975年) (第4回)	昭和56年 (1981年) (第5回)	昭和62年 (1987年) (第6回)	平成5年 (1993年) (第7回)	平成11年 (1999年) (第8回)	平成17年 (2005年) (第9回)	平成23年 (2011年) (第10回)	平成28年 ^{注2} (2016年) (第11回)
総数	30,504	24,068	20,100	15,816	14,462	12,474	9,827	6,903	4,606	4,253	6,278
男	13,954	10,383	8,885	6,851	6,232	5,209	4,210	2,865	1,926	1,812	2,868
女	16,550	13,685	11,215	8,965	8,230	7,265	5,617	4,038	2,680	2,441	3,410
1～9歳	7,496	4,505	3,509	3,040	2,588	2,011	1,361	761	412	365	512
10～19歳	6,341	5,523	3,633	2,328	2,220	1,741	1,200	614	327	283	456
20～29歳	4,055	2,815	2,549	2,044	1,375	989	701	557	279	211	358
30～39歳	3,991	3,556	3,103	2,451	2,269	1,840	1,277	807	436	464	624
40～49歳	3,334	2,800	2,852	2,360	2,106	1,661	1,467	876	506	437	824
50～59歳	2,665	2,375	2,157	1,608	1,872	1,775	1,468	1,063	704	543	814
60～69歳	1,752	1,710	1,448	1,250	1,174	1,432	1,372	1,236	930	835	1210
70～79歳	721	668	706	614	699	811	756	807	769	784	957
80歳～	149	116	143	121	159	214	225	182	243	331	523
(再掲: 口腔診査受診者のみ)											
乳歯 (1～14歳)	11,386	8,040	5,542	4,457	3,999	3,081	2,073	1,104	620	535	440
乳歯+永久歯 (5～14歳)	8,688	6,254	4,021	3,047	2,983	2,256	1,533	771	455	380	316
永久歯 (5歳～)	27,812	22,282	18,579	14,406	13,446	11,649	9,287	6,570	4,441	4,098	3,696

注1) 昭和32年（1957年）年～昭和44年（1969年）年調査では調査対象者に0歳児を含んでいたが、本表では比較のために1歳未満の者を除いた人数を掲載した。

注2) 平成28年（2016年）の数値は質問紙調査のみの被調査者を含む。

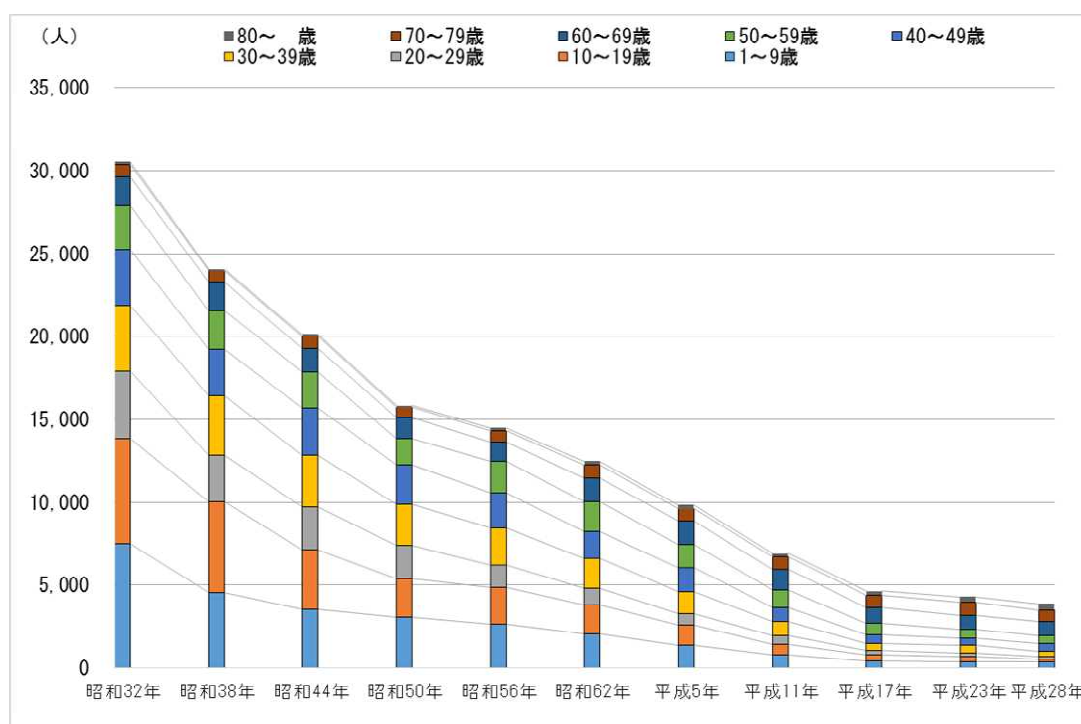


図1. 被調査者数の推移（口腔診査受診者のみ）

表2. 被調査者数（口腔診査受診有無・年齢階級・性別）

(人)

年齢階級 (歳)	被調査者数								
	口腔診査受診			質問調査回答のみ			計		
	総数	性別		総数	性別		総数	性別	
		男	女		男	女		男	女
1～4	124	63	61	77	37	40	201	100	101
5～9	194	100	94	117	58	59	311	158	153
10～14	122	64	58	128	63	65	250	127	123
15～19	51	19	32	155	77	78	206	96	110
20～24	70	34	36	116	56	60	186	90	96
25～29	86	37	49	86	50	36	172	87	85
30～34	139	44	95	139	70	69	278	114	164
35～39	190	66	124	156	89	67	346	155	191
40～44	254	97	157	194	88	106	448	185	263
45～49	202	77	125	174	84	90	376	161	215
50～54	221	81	140	169	97	72	390	178	212
55～59	254	100	154	170	84	86	424	184	240
60～64	351	138	213	149	86	63	500	224	276
65～69	503	245	258	207	92	115	710	337	373
70～74	380	184	196	129	56	73	509	240	269
75～79	319	155	164	129	51	78	448	206	242
80～84	224	99	125	76	36	40	300	135	165
85～	136	64	72	87	27	60	223	91	132
計	3,820	1,667	2,153	2,458	1,201	1,257	6,278	2,868	3,410

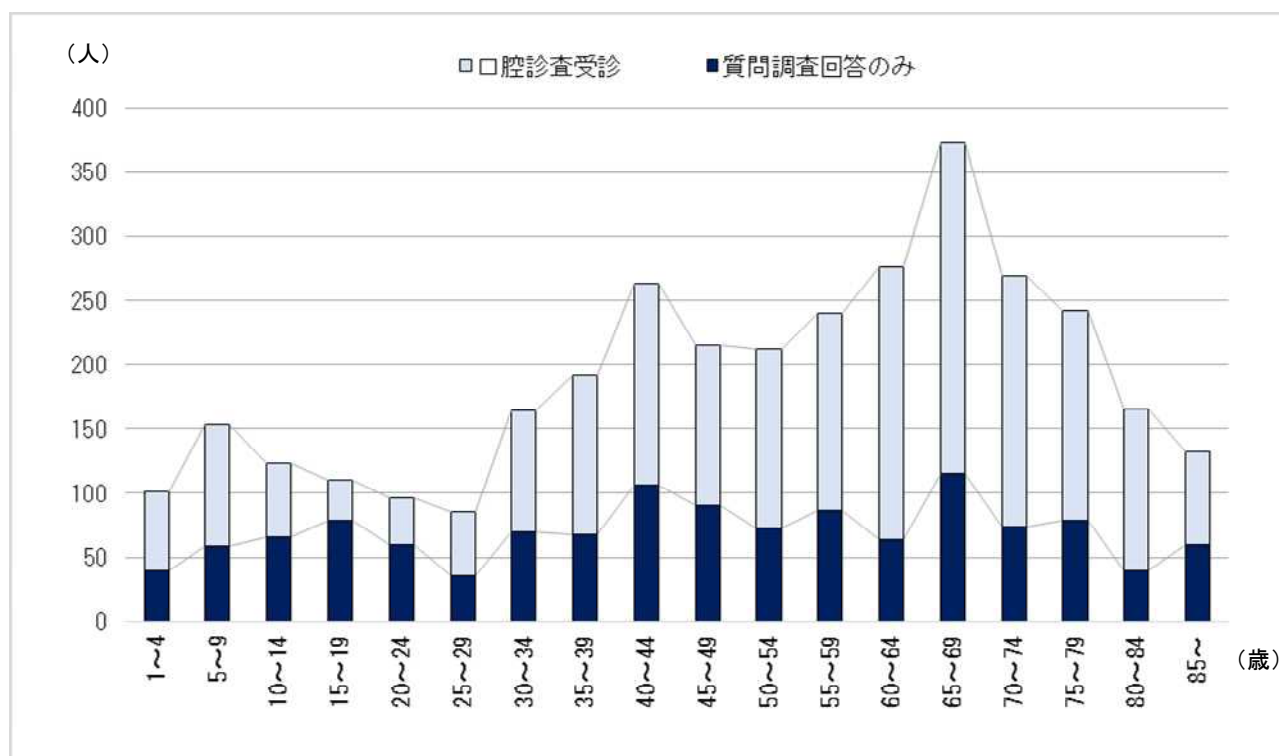


図2. 被調査者数：口腔診査受診有無別

2. 歯の状況

1) 乳歯

4歳以上8歳未満ではう歯を持つ者の割合が40%前後であった（表3、図3）。14歳以下の各年齢において過去の調査と比較すると、う歯を持つ者の割合（表4、図4）、1人平均df歯数（dft指数）（表5、図5）、1人平均未処置歯数（表6、図6）は概ね減少傾向を示していた。

表3. う歯を持つ者の数及び割合（乳歯：1～14歳）

年齢 (歳)	被調査者 数(人)	人数(人)				割合(%)			
		う歯の ない者	う歯のある者			う歯の ない者	う歯のある者		
			処置完了 の者	処置歯・ 未処置歯 を併有す る者	未処置 の者		処置完了 の者	処置歯・ 未処置歯 を併有す る者	未処置 の者
1	37	37	-	-	-	100.0	-	-	-
2	27	25	-	-	2	92.6	-	-	7.4
3	35	32	-	-	3	91.4	-	-	8.6
4	25	16	3	-	6	64.0	12.0	-	24.0
5	41	25	8	4	4	61.0	19.5	9.8	9.8
6	44	24	9	8	3	54.5	20.5	18.2	6.8
7	34	22	6	6	-	64.7	17.6	17.6	-
8	43	19	17	4	3	44.2	39.5	9.3	7.0
9	32	11	10	9	2	34.4	31.3	28.1	6.3
10	22	16	4	-	2	72.7	18.2	-	9.1
11	32	23	6	2	1	71.9	18.8	6.3	3.1
12	29	28	-	1	-	96.6	-	3.4	-
13	18	16	2	-	-	88.9	11.1	-	-
14	21	21	-	-	-	100.0	-	-	-

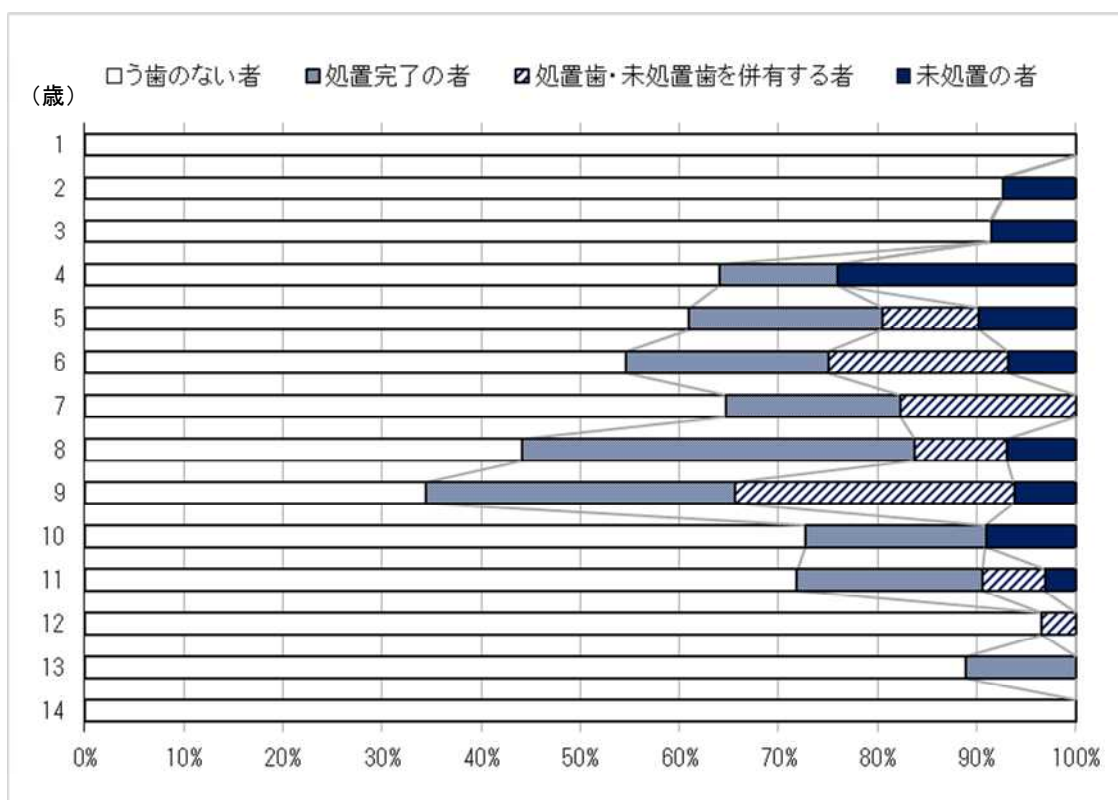


図3. う歯を持つ者の割合（乳歯：1～14歳）

表4. う歯を持つ者の割合の年次推移（乳歯：1～14歳）

(%)

年齢（歳）	平成5年 （1993年）	平成11年 （1999年）	平成17 （2005年）	平成23年 （2011年）	平成28年 （2016年）
1	8.3	1.2	3.1	0.0	0.0
2	32.8	21.5	17.8	7.5	7.4
3	59.7	36.4	24.4	25.0	8.6
4	67.8	41.5	44.2	34.8	36.0
5	77.0	64.0	60.5	50.0	39.0
6	88.4	78.0	63.4	42.1	45.5
7	90.5	78.0	67.3	55.6	35.3
8	91.1	85.9	61.7	69.2	55.8
9	91.5	79.8	72.1	46.7	65.6
10	66.9	60.7	62.5	52.1	27.3
11	47.1	41.3	38.3	26.3	28.1
12	20.3	12.5	17.1	27.0	3.4
13	7.1	9.2	2.4	14.3	11.1
14	3.0	1.4	3.2	0.0	0.0

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

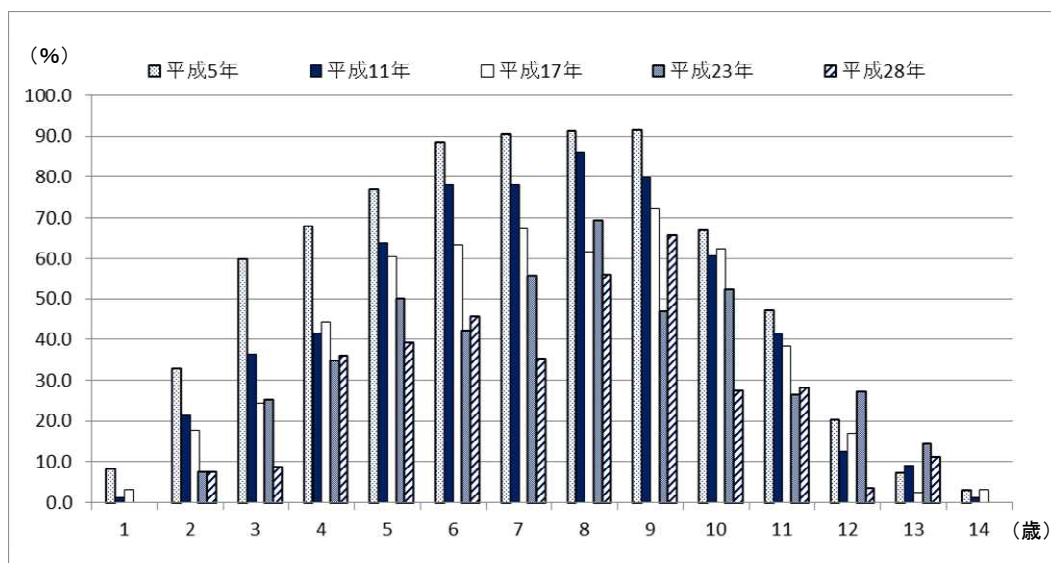
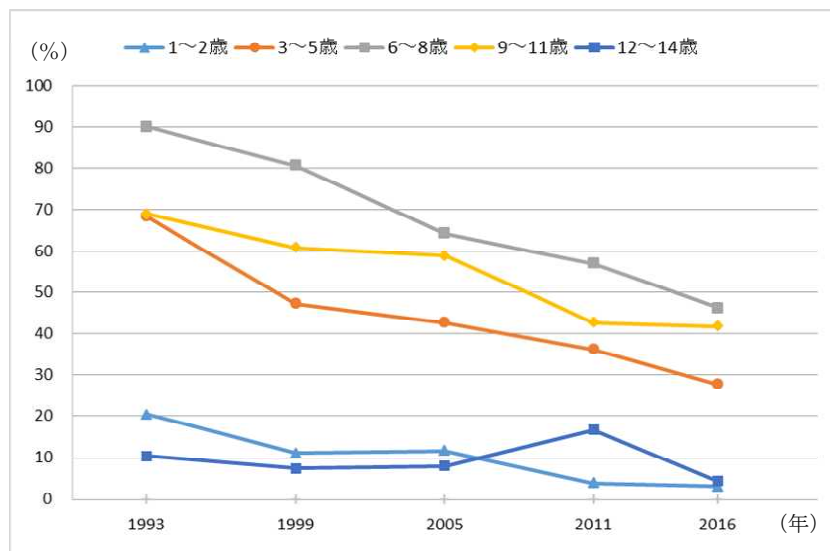


図4. う歯を持つ者の割合の年次推移（乳歯：1～14歳）

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表5. 1人平均う歯数（dft指数）の年次推移（乳歯：1～14歳）

(本)

年齢（歳）	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
2	1.4	0.8	0.4	0.2	1.0
3	3.2	2.1	0.9	0.6	1.0
4	4.3	2.5	2.9	1.5	0.9
5	6.2	3.7	2.3	2.8	1.7
6	7.1	5.0	3.7	1.8	2.4
7	6.2	4.0	4.2	2.6	1.4
8	5.8	4.8	3.0	3.0	1.7
9	4.8	3.5	3.6	1.7	2.1
10	2.7	2.2	2.1	2.0	0.6
11	1.3	1.1	1.0	0.7	0.8
12	0.6	0.2	0.3	0.5	0.2
13	0.1	0.2	0.0	0.3	0.3
14	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

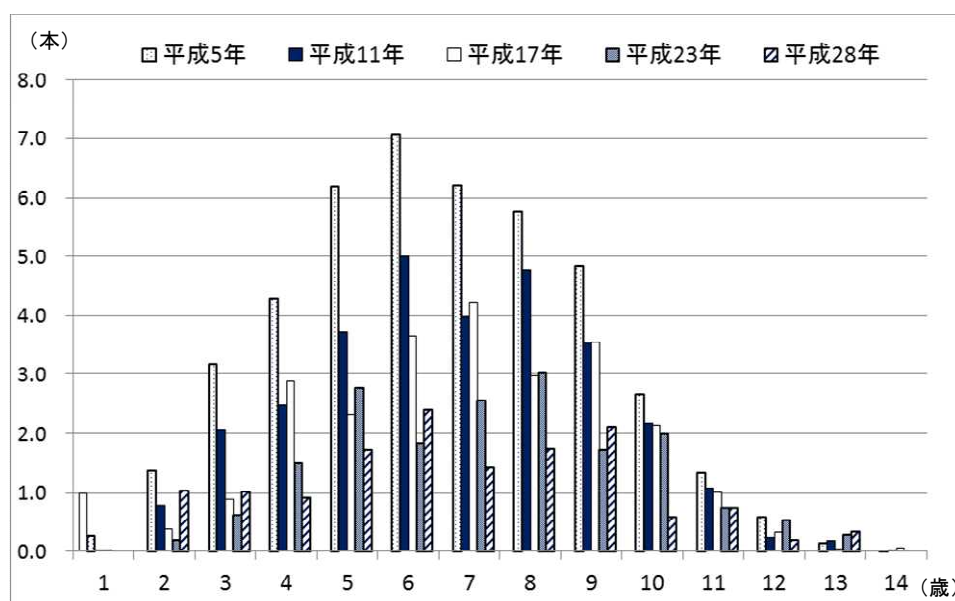
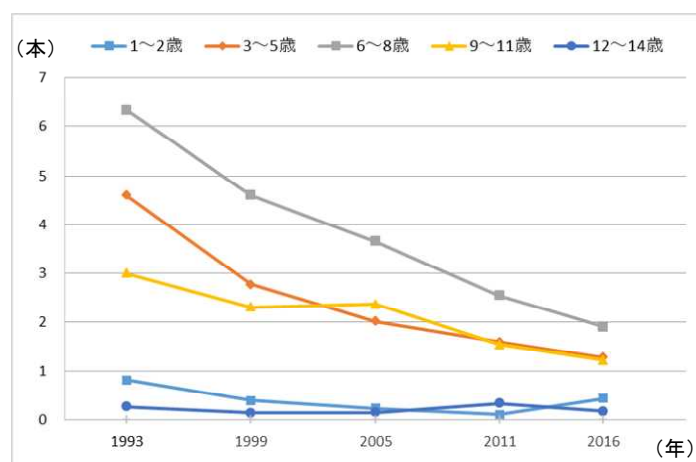


図5. 1人平均う歯数（dft指数）の年次推移（乳歯：1～14歳）

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表6. 1人平均未処置歯数の年次推移（乳歯：1～14歳）

(本)

年齢（歳）	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
2	1.2	0.8	0.0	0.2	0.3
3	2.7	1.4	0.4	0.6	0.3
4	2.7	1.4	0.9	0.7	0.6
5	3.4	2.0	1.1	1.5	1.0
6	3.5	2.1	2.0	0.9	1.0
7	2.1	1.2	2.7	0.8	0.4
8	1.9	1.0	2.2	0.8	0.3
9	1.1	0.8	2.6	0.4	0.8
10	0.6	0.6	1.8	0.4	0.1
11	0.4	0.2	0.7	0.1	0.1
12	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0
13	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0
14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

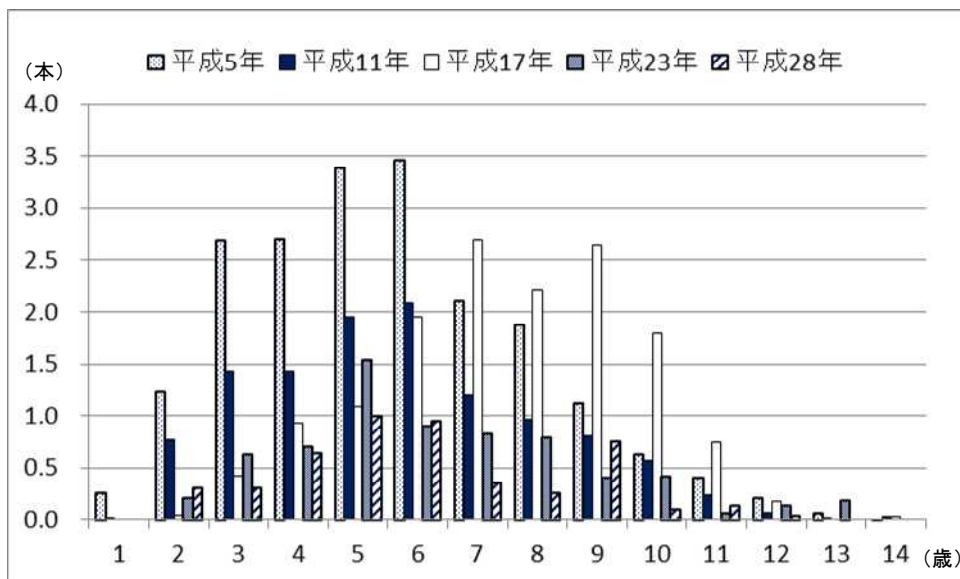
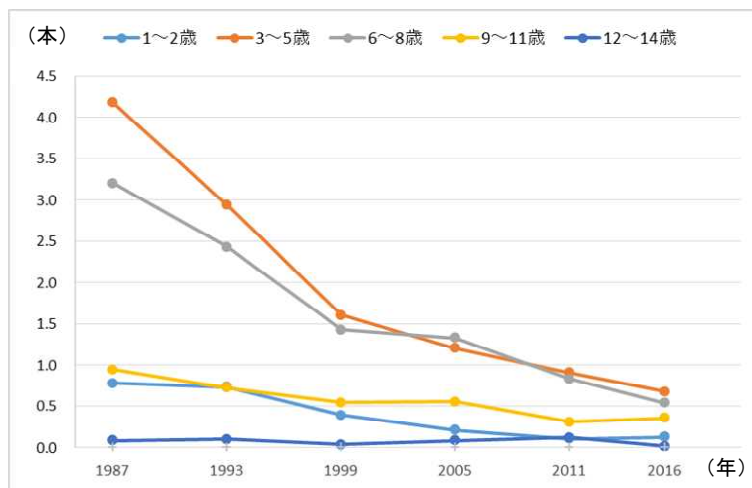


図6. 1人平均未処置歯数の年次推移（乳歯：1～14歳）

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

2) 乳歯+永久歯

5歳以上15歳未満においては、12歳以上13歳未満以外の各年齢において、4～7割程度の者が乳歯または永久歯にう歯を有していた（表7、図7）。過去の調査と比較すると、減少傾向を示していた（表8、図8）。

表7. う歯を持つ者の数及び割合（乳歯+永久歯：5～14歳）

年齢 (歳)	被調査者 数(人)	人数(人)					割合(%)			
		う歯の ない者	う歯のある者			う歯の ない者	う歯のある者			
			処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置 の者		処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置 の者	
5	41	25	8	4	4	61.0	19.5	9.8	9.8	
6	44	24	9	8	3	54.5	20.5	18.2	6.8	
7	34	21	7	6	-	61.8	20.6	17.6	0.0	
8	43	17	16	5	5	39.5	37.2	11.6	11.6	
9	32	9	9	13	1	28.1	28.1	40.6	3.1	
10	22	14	6	1	1	63.6	27.3	4.5	4.5	
11	32	21	7	2	2	65.6	21.9	6.3	6.3	
12	29	26	1	1	1	89.7	3.4	3.4	3.4	
13	18	10	5	1	2	55.6	27.8	5.6	11.1	
14	21	13	2	1	5	61.9	9.5	4.8	23.8	

注) 平成5年(1993年)以前、平成11年(1999年)以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

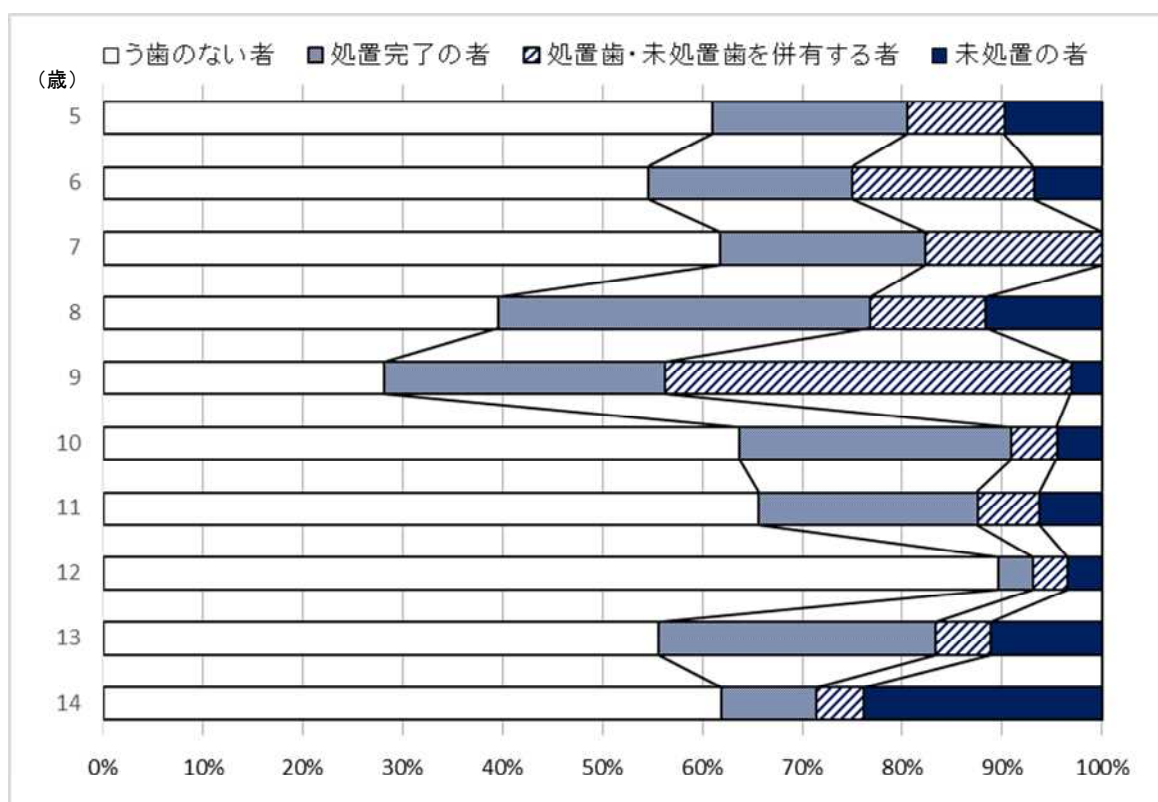


図7. う歯を持つ者の割合（乳歯+永久歯：5～14歳）

注) 平成5年(1993年)以前、平成11年(1999年)以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表8. う歯を持つ者の割合の年次推移（乳歯＋永久歯：5～14歳）
（％）

年齢（歳）	平成5年 （1993年）	平成11年 （1999年）	平成17年 （2005年）	平成23年 （2011年）	平成28年 （2016年）
5	77.0	64.0	60.5	50.0	39.0
6	89.0	78.0	63.4	42.1	45.5
7	91.0	79.3	67.3	57.8	38.2
8	92.4	89.4	61.7	69.2	60.5
9	95.1	84.5	75.4	53.3	71.9
10	94.3	80.3	81.3	62.5	36.4
11	94.8	77.5	68.1	42.1	34.4
12	87.4	71.9	58.5	45.9	10.3
13	92.1	72.3	70.7	42.9	44.4
14	91.7	84.9	71.0	52.6	38.1

注）平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

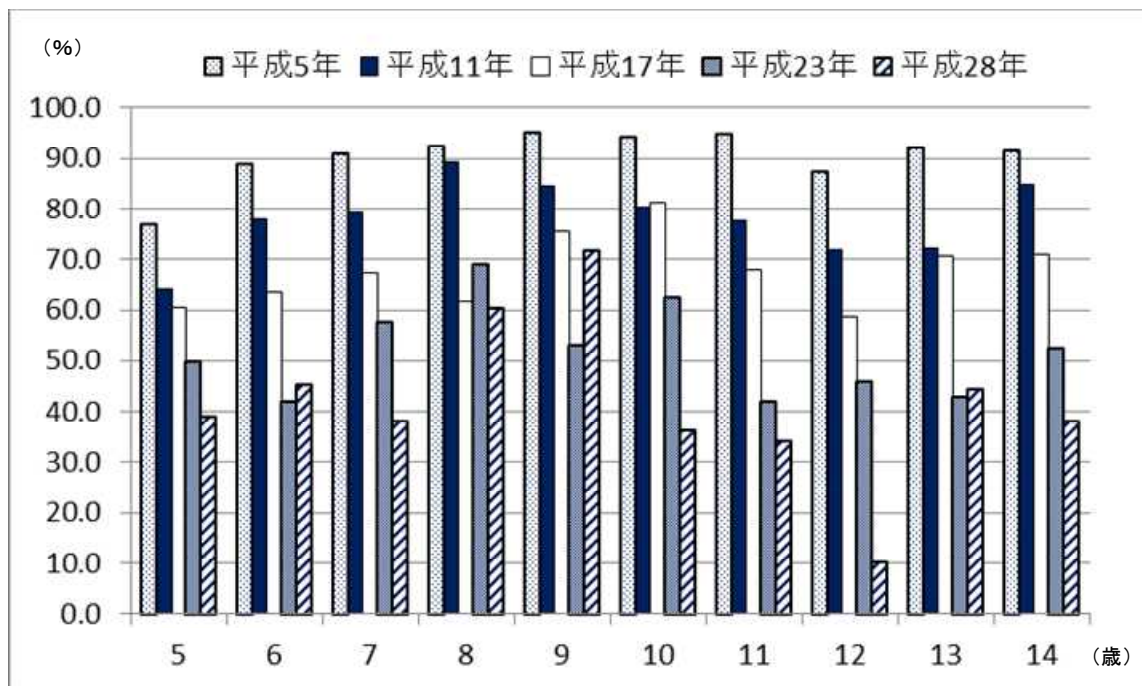
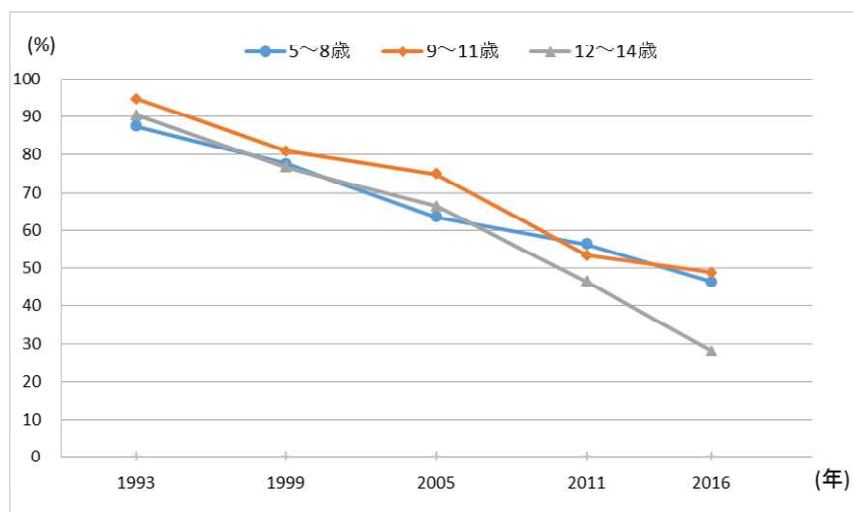


図8. う歯を持つ者の割合の年次推移（乳歯＋永久歯：5～14歳）

注）平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

3) 永久歯

[1] う蝕の状況

5歳以上10歳未満では処置歯または未処置のう歯を持つ者の割合は10%を下まわったが、25歳以上85歳未満では80%以上と高く、とくに35歳以上55歳未満では100%に近かった（表9、図9）。

過去の調査と比較すると、5歳以上35歳未満では減少傾向を示していたが、65歳以上では増加傾向にあった（表10、図10）。5歳以上15歳未満の1人平均DMF歯数（DMFT指数）は、近年著明な減少傾向を示していた（表11、図11）。15歳以上においてDMFT指数を過去の調査と比較すると、若年者において減少が見られるだけでなく、35歳以上の各年齢階級においても緩やかに減少する傾向にあった（表12、図12）。

う蝕の処置状況は、若年者では充填の割合が圧倒的に多かったが、65歳以上ではクラウンが過半数を占めた。クラウンの数は35歳以上から顕在化し、50歳以上になるとブリッジの支台となるクラウンが多かった（表13、図13）。

表9. う歯を持つ者の数及び割合（永久歯：5歳以上）

年齢階級 (歳)	被調査者 数 (人)	人数 (人)				割合 (%)			
		う歯の ない者	う歯のある者			う歯の ない者	う歯のある者		
			処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置 の者		処置完了 の者	処置歯・未 処置歯を併 有する者	未処置 の者
5～9	194	178	8	3	5	91.8	4.1	1.5	2.6
10～14	122	98	12	2	10	80.3	9.8	1.6	8.2
15～19	51	27	14	4	6	52.9	27.5	7.8	11.8
20～24	70	15	32	20	3	21.4	45.7	28.6	4.3
25～29	86	10	40	33	3	11.6	46.5	38.4	3.5
30～34	139	12	79	45	3	8.6	56.8	32.4	2.2
35～39	190	1	122	64	3	0.5	64.2	33.7	1.6
40～44	254	2	163	87	2	0.8	64.2	34.3	0.8
45～49	202	1	140	60	1	0.5	69.3	29.7	0.5
50～54	221	1	155	64	1	0.5	70.1	29.0	0.5
55～59	254	4	165	80	5	1.6	65.0	31.5	2.0
60～64	351	7	221	117	6	2.0	63.0	33.3	1.7
65～69	503	16	323	154	10	3.2	64.2	30.6	2.0
70～74	380	28	226	120	6	7.4	59.5	31.6	1.6
75～79	319	28	179	104	8	8.8	56.1	32.6	2.5
80～84	224	38	118	64	4	17.0	52.7	28.6	1.8
85～	136	38	57	36	5	27.9	41.9	26.5	3.7

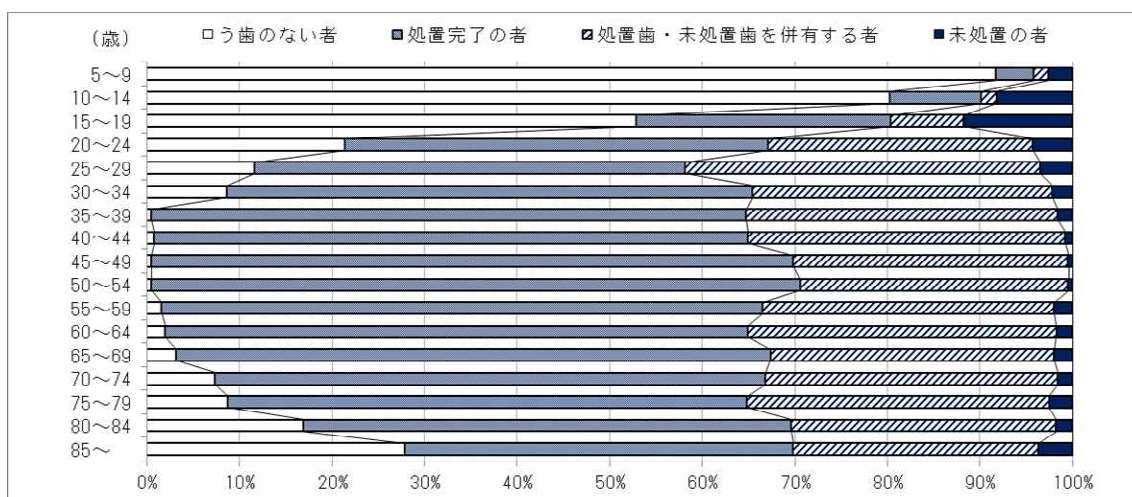


図9. う歯を持つ者の割合（永久歯：5歳以上）

表10. う歯を持つ者の割合の年次推移（永久歯：5歳以上）

(%)

年齢階級 (歳)	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
5～9	36.3	24.3	14.6	10.0	8.2
10～14	86.4	69.7	57.7	34.7	19.7
15～19	94.9	88.9	73.9	63.7	47.1
20～24	97.7	96.0	90.5	89.9	78.6
25～34	98.7	98.6	98.5	96.2	90.2
35～44	99.5	99.3	100.0	98.8	99.3
45～54	97.1	98.7	98.7	99.1	99.5
55～64	91.9	94.8	97.4	97.5	98.2
65～74	76.9	83.7	88.5	91.9	95.0
75～84	54.5	65.2	68.7	84.1	87.8
85～	39.4	41.8	58.3	65.1	72.1

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

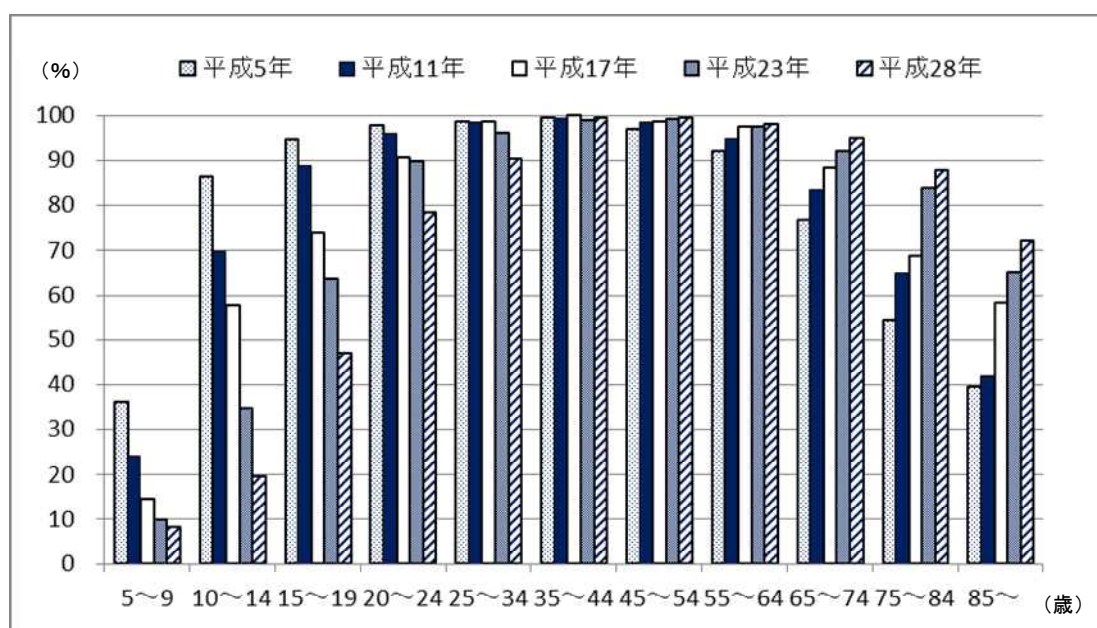


図10. う歯を持つ者の割合の年次推移（永久歯：5歳以上）

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表11. 1人平均DMF歯数（DMFT指数）の年次推移（永久歯：5～15歳未満）
（本）

年齢 (歳)	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
5	0.1	0.0	-	-	-
6	0.2	0.2	0.2	-	-
7	0.9	0.4	0.2	0.1	0.1
8	1.5	0.9	0.5	0.3	0.3
9	2.2	1.1	0.9	0.4	0.4
10	2.8	2.3	0.9	0.5	0.2
11	3.6	2.2	1.6	0.7	0.3
12	3.6	2.4	1.7	1.4	0.2
13	4.9	3.7	2.6	1.8	1.1
14	6.1	5.2	3.3	1.3	0.6

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

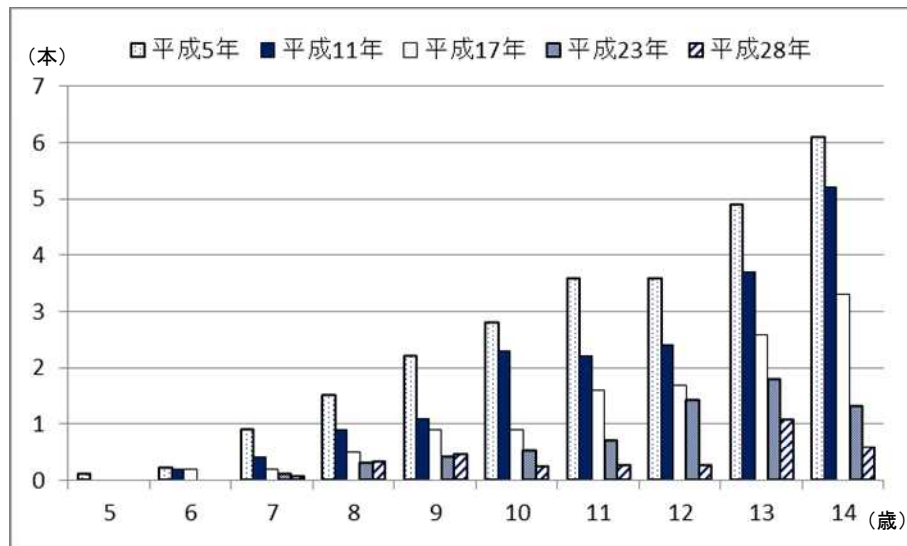
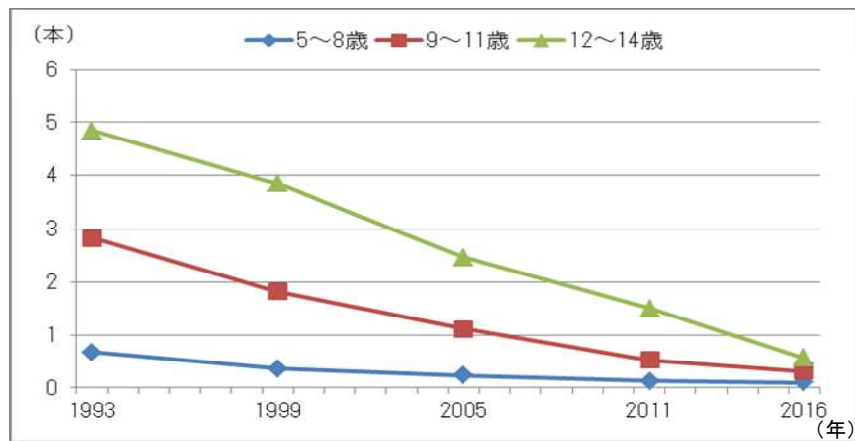


図11. 1人平均DMF歯数（DMFT指数）の年次推移（永久歯：5～15歳未満）

注) 平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表12. 1人平均DMF歯数（DMFT指数）の年次推移（永久歯：15歳以上）
（本）

年齢階級 （歳）	平成5年 （1993年）	平成11年 （1999年）	平成17 （2005年）	平成23年 （2011年）	平成28年 （2016年）
15～24	9.0	8.2	6.1	4.4	3.1
25～34	14.1	12.9	11.5	9.9	7.4
35～44	15.5	15.4	14.9	12.3	12.1
45～54	16.1	16.5	16.2	15.7	14.8
55～64	19.6	18.3	17.4	17.9	17.1
65～74	23.7	22.5	21.6	20.0	19.2
75～	26.6	25.8	25.1	23.9	22.6

注）平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

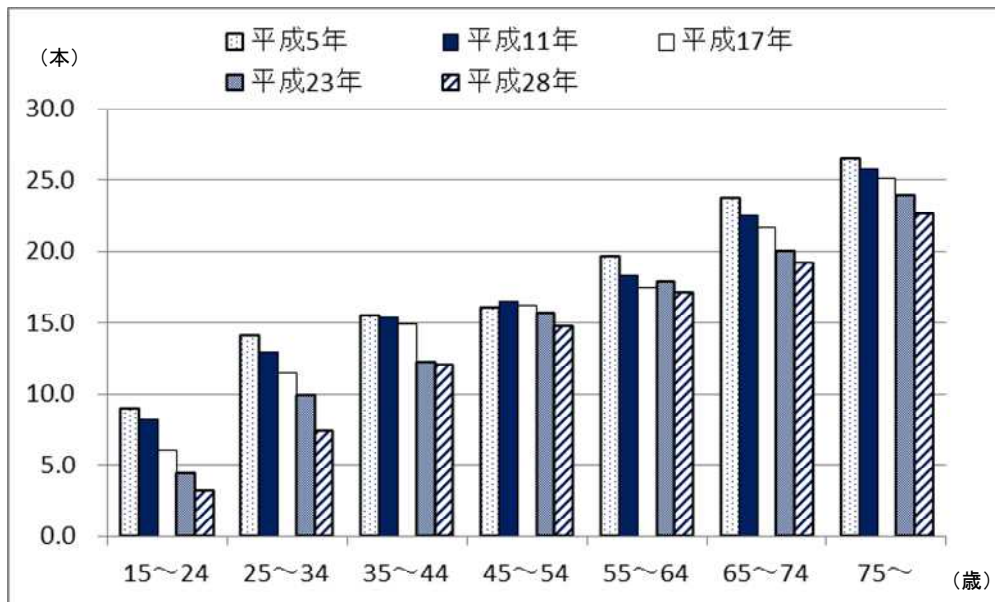
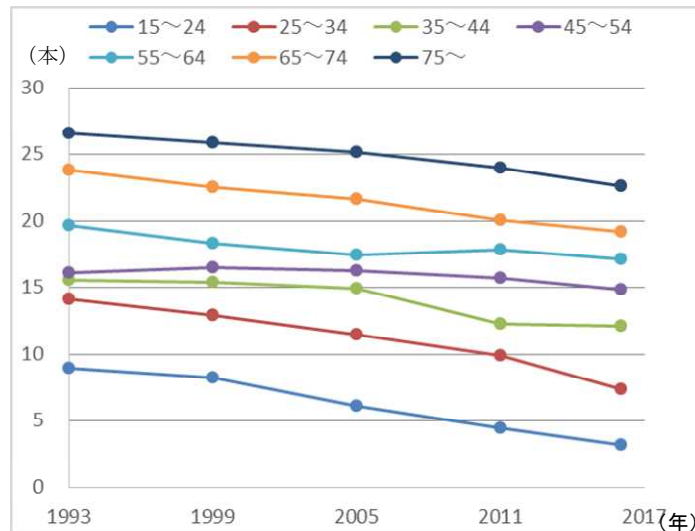


図12. 1人平均DMF歯数（DMFT指数）の年次推移、（永久歯：15歳以上）

注）平成5年（1993年）以前、平成11年（1999年）以降では、それぞれ未処置歯の診断基準が異なる

表13. 処置歯にしめる充填歯・クラウンの数及び割合（永久歯：5歳以上）

年齢階級 (歳)	1人あたり平均歯数 (本)			割合 (%)		
	充填歯	クラウン (ブリッジの 支台以外)	クラウン (ブリッジの 支台)	充填歯	クラウン (ブリッジの 支台以外)	クラウン (ブリッジの 支台)
5~9	0.1	-	-	100	0.0	0.0
10~14	0.3	-	-	100	0.0	0.0
15~19	1.4	0.0	-	99	1.4	0.0
20~24	2.8	0.3	0.1	88	10.2	1.8
25~29	4.2	0.5	0.1	88	9.5	2.2
30~34	6.5	0.8	0.0	89	11.0	0.4
35~39	8.3	1.6	0.2	82	16.0	2.2
40~44	8.2	2.3	0.4	75	21.4	3.2
45~49	8.3	3.4	0.6	68	27.7	4.8
50~54	7.3	4.4	1.0	57	34.7	7.9
55~59	6.6	4.3	1.5	53	34.8	12.0
60~64	6.2	4.4	1.7	50	35.7	13.9
65~69	4.8	4.7	1.8	43	41.3	15.9
70~74	4.1	4.3	1.6	41	42.9	16.3
75~79	3.8	4.4	1.7	38	44.2	17.4
80~84	3.1	4.7	1.9	32	48.8	19.2
85~	1.6	3.6	1.4	24	54.9	21.1

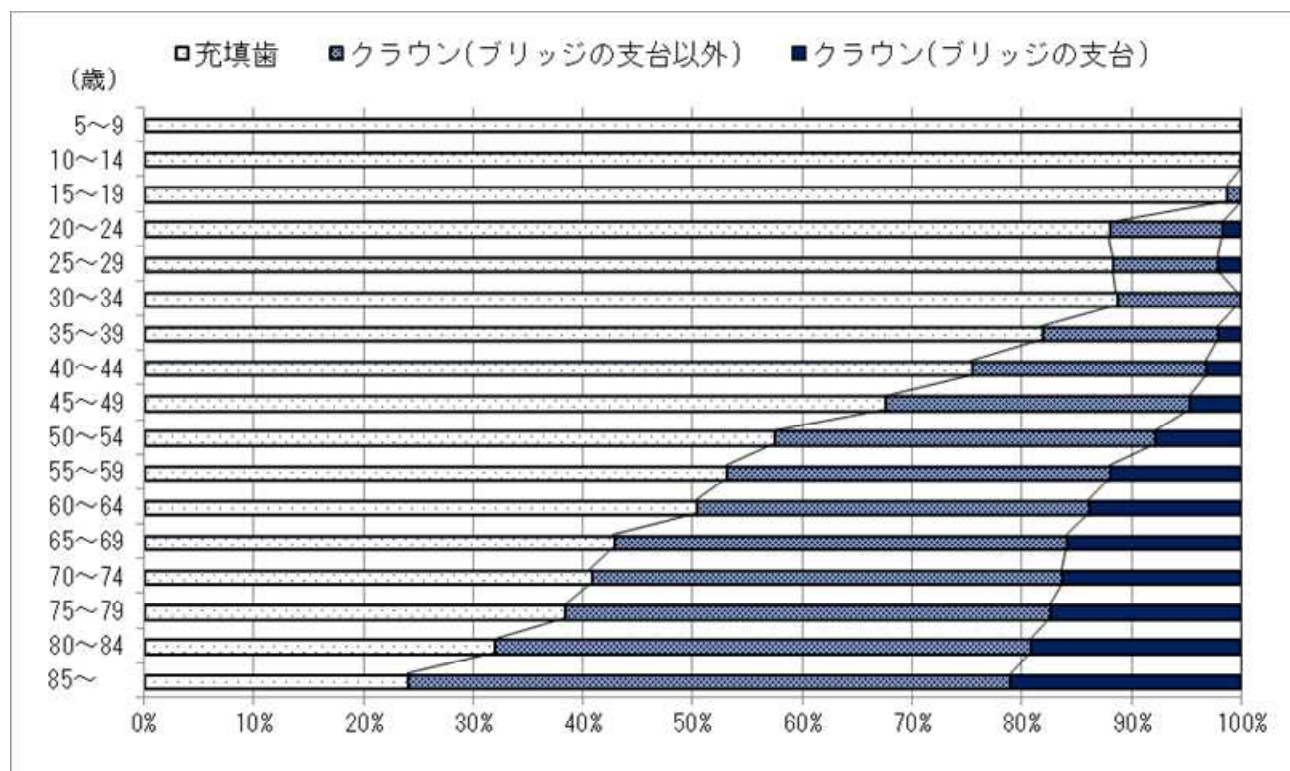


図13. 処置歯にしめる充填歯・クラウンの割合（永久歯：5歳以上）

[2] 喪失歯の状況とその補綴状況

5歳以上の多くの年齢階級で、喪失歯を有する者の割合（喪失歯所有者率）は、過去の調査より減少する傾向を示し（表14、図14）、1人平均喪失歯数も減少する傾向を示した（表15、図15）。

欠損補綴物の装着者は55歳以上で半数を超えた。装着された補綴物の内訳は、85歳未満ではブリッジ装着者が最も多いが、そのピークは65歳以上70歳未満で約半数に見られた。85歳以上では部分床義歯装着者と全部床義歯装着者が同程度に多かったが、これらの義歯は年齢階級が高くなるにつれて多く見られた。他方でインプラント装着者は、どの年齢階級でも5%に満たなかった（表16、図16）。

表14. 喪失歯所有者率の年次推移（永久歯：5歳以上）

年齢階級 (歳)	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
5～9	-	-	-	0.9	-
10～14	0.8	0.3	1.0	1.2	-
15～19	4.7	4.1	3.4	1.8	2.0
20～24	13.3	6.3	12.4	9.0	2.9
25～29	33.7	23.3	13.2	10.7	8.1
30～34	49.1	31.5	25.9	24.9	11.5
35～39	61.2	49.6	42.1	22.5	20.5
40～44	67.3	62.4	49.0	34.4	31.1
45～49	73.2	70.8	63.7	44.3	41.1
50～54	78.8	78.3	67.7	58.8	61.5
55～59	84.0	80.1	82.6	76.2	72.8
60～64	91.3	88.4	85.9	83.0	79.2
65～69	95.6	92.8	91.5	87.3	87.9
70～74	98.7	96.4	94.6	91.4	87.4
75～79	98.6	98.3	98.1	96.2	90.9
80～84	100.0	97.4	97.7	97.3	93.8
85～	100.0	100.0	100.0	100.0	97.1

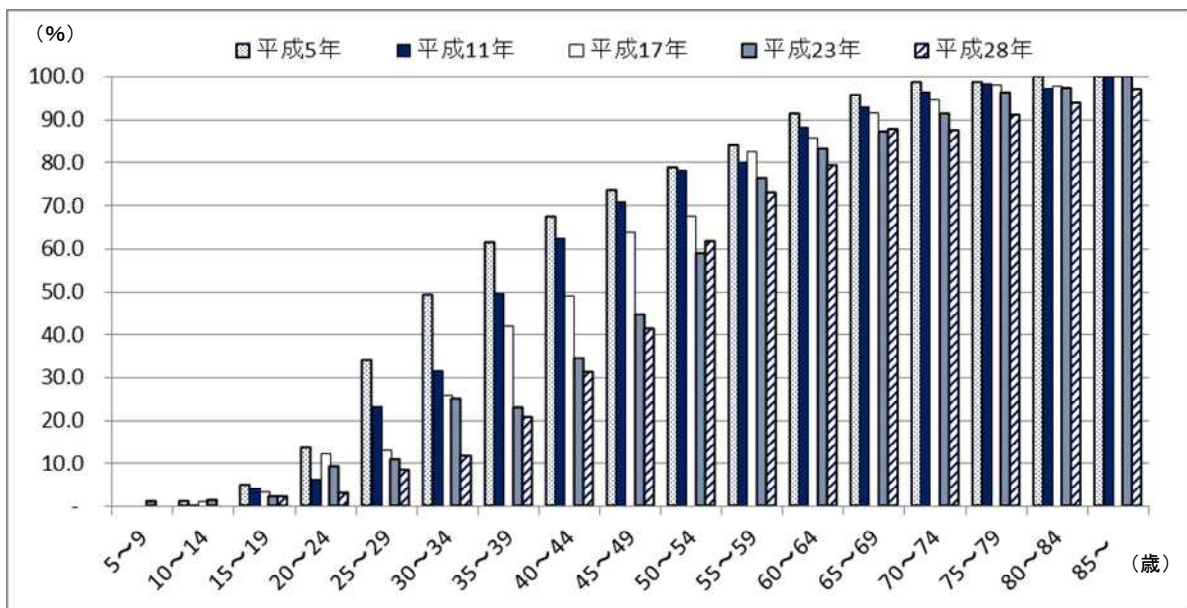


図14. 喪失歯所有者率の年次推移（永久歯：5歳以上）

表15. 1人平均喪失歯数の年次推移（永久歯：5歳以上）

(本)

年齢階級 (歳)	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
5～9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15～19	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
20～24	0.2	0.2	0.3	0.1	0.0
25～29	0.7	0.4	0.2	0.2	0.2
30～34	1.3	0.6	0.4	0.4	0.2
35～39	1.9	1.2	1.0	0.5	0.3
40～44	2.7	1.8	1.4	0.9	0.8
45～49	3.6	3.4	2.3	1.5	0.9
50～54	5.6	4.4	3.7	2.6	2.0
55～59	7.7	6.3	5.0	4.1	3.1
60～64	11.3	8.0	7.1	5.9	4.6
65～69	15.6	11.6	10.1	7.2	6.7
70～74	17.6	15.6	13.1	11.0	8.6
75～79	21.4	19.1	17.6	12.7	10.3
80～84	22.9	20.8	19.3	16.1	12.9
85～	24.9	24.0	22.0	19.7	17.5

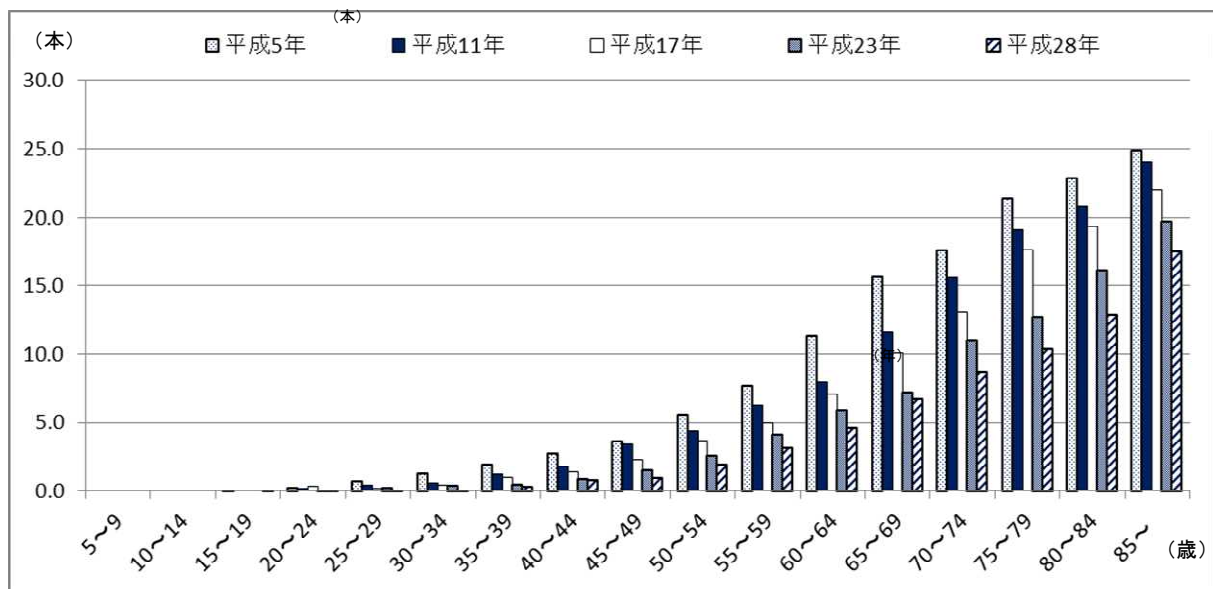


図15. 1人平均喪失歯数の年次推移（永久歯：5歳以上）

表16. 補綴物の装着の有無と各補綴物の装着者の割合

(%)

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	補綴物 未装着者	ブリッジ 装着者	部分床義歯 装着者	全部床義歯 装着者	インプラント 装着者
15～19	51	100.0	-	-	-	-
20～24	70	98.6	1.4	-	-	-
25～29	86	95.3	4.7	-	-	-
30～34	139	97.1	2.9	-	-	-
35～39	190	88.4	10.0	1.6	-	-
40～44	254	83.9	16.1	1.2	-	2.0
45～49	202	78.7	20.3	1.5	-	1.5
50～54	221	60.2	34.4	6.3	0.9	1.4
55～59	254	47.6	46.9	10.6	1.6	2.8
60～64	351	41.9	46.7	18.8	4.0	2.3
65～69	503	29.4	50.9	31.0	8.9	4.6
70～74	380	24.5	47.9	38.2	14.7	3.7
75～79	319	21.0	45.5	41.7	20.1	3.4
80～84	224	13.4	45.1	42.4	31.3	2.7
85～	136	10.3	36.8	46.3	46.3	-

注) 複数の種類の義歯を装着している者がいるため、義歯装着者の割合を合計すると100%以上となる年齢階級がある。

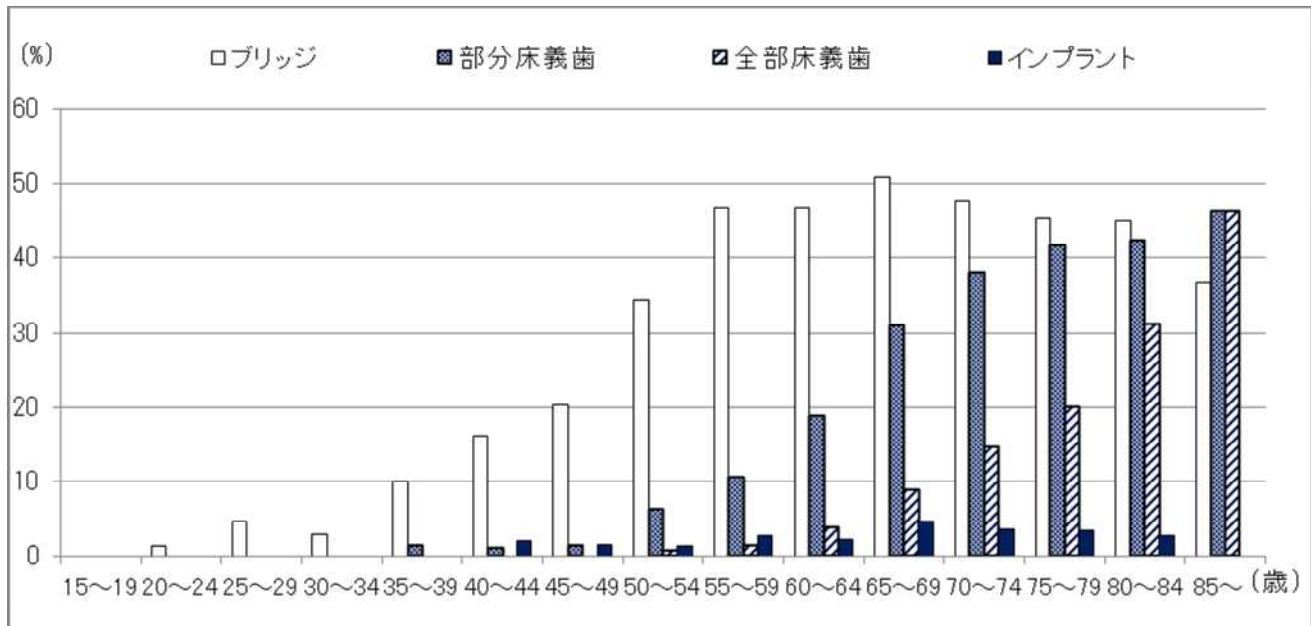


図16. 補綴物の装着の有無と各補綴物の装着者の割合

[3] 現在歯の状況（8020達成者等）

20歯以上の自分の歯を有する者は、いずれの年齢階級においても回を重ねるごとに増加傾向にあった（表17、図17）。なお、8020達成者の割合（80歳で20本以上の歯を有する者の割合）は、75歳以上85歳未満の8020達成者の割合から、51.2%と推計される。また男女を比較すると20歯以上保有者の割合（表18、図18）、1人平均現在歯数（表19、図19）ともに、後期高齢者で男性の方がやや高値を示した。

表17. 20本以上の歯を有する者の割合の年次推移

年齢階級 (歳)	割合 (%)				
	平成5年 (1993年)	平成11年 (1999年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成28年 (2016年)
40～44	92.9	97.1	98.0	98.7	98.8
45～49	88.1	90.0	95.0	97.1	99.0
50～54	77.9	84.3	88.9	93.0	95.9
55～59	67.5	74.6	82.3	85.7	91.3
60～64	49.9	64.9	70.3	78.4	85.2
65～69	31.4	48.8	57.1	69.6	73.0
70～74	25.5	31.9	42.4	52.3	63.4
75～79	10.0	17.5	27.1	47.6	56.1
80～84	11.7	13.0	21.1	28.9	44.2
85～	2.8	4.5	8.3	17.0	25.7

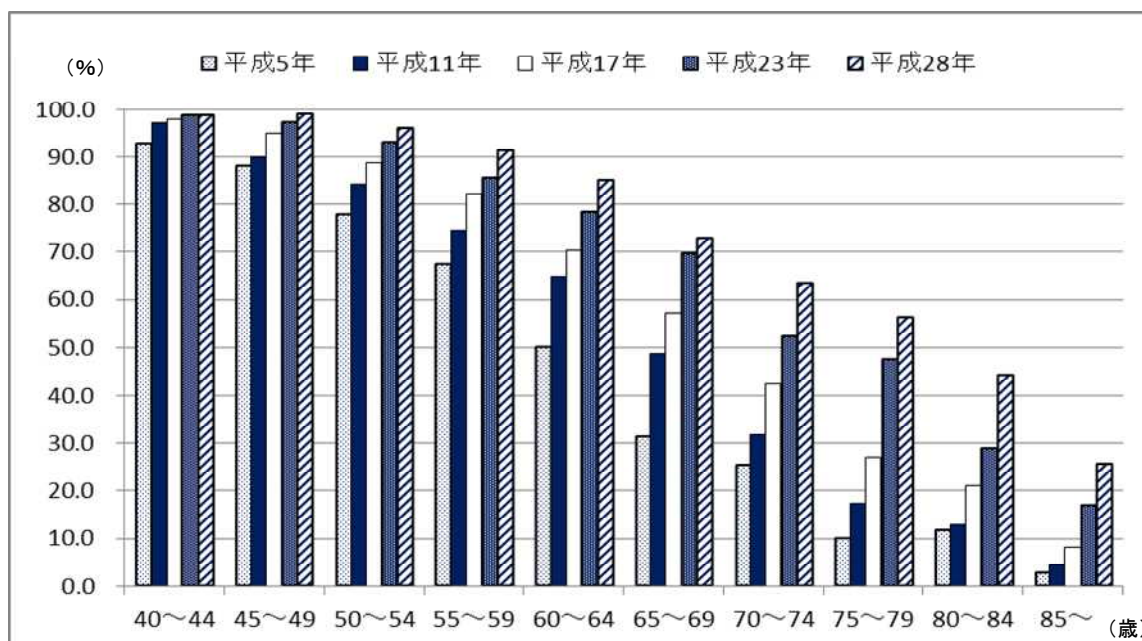
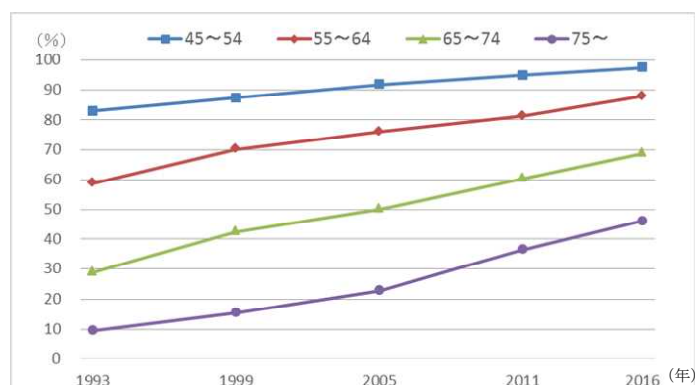


図17. 20本以上の歯を有する者の割合の年次推移

表18. 20本以上の歯を有する者の数及び割合

年齢階級 (歳)	被調査者数 (人)	人数 (人)			割合 (%)		
		男	女	総数	男	女	総数
40～44	254	95	156	251	97.9	99.4	98.8
45～49	202	75	125	200	97.4	100.0	99.0
50～54	221	75	137	212	92.6	97.9	95.9
55～59	254	89	143	232	89.0	92.9	91.3
60～64	351	114	185	299	82.6	86.9	85.2
65～69	503	179	188	367	73.1	72.9	73.0
70～74	380	110	131	241	59.8	66.8	63.4
75～79	319	92	87	179	59.4	53.0	56.1
80～84	224	46	53	99	46.5	42.4	44.2
85～	136	20	15	35	31.3	20.8	25.7

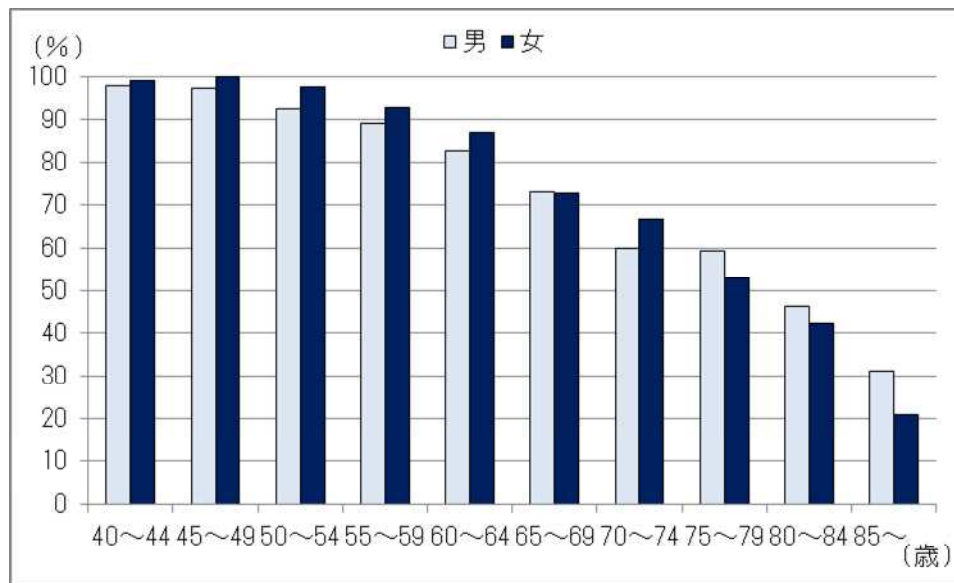


図18. 20本以上の歯を有する者の割合

表19. 1人平均現在歯数

(本)

年齢階級 (歳)	男	女	総数
40～44	28.0	28.0	28.0
45～49	27.6	27.6	27.6
50～54	25.8	26.8	26.4
55～59	24.5	25.9	25.3
60～64	23.7	24.0	23.9
65～69	21.5	21.7	21.6
70～74	18.6	20.7	19.7
75～79	18.5	17.6	18.0
80～84	15.1	15.5	15.3
85～	12.0	9.5	10.7

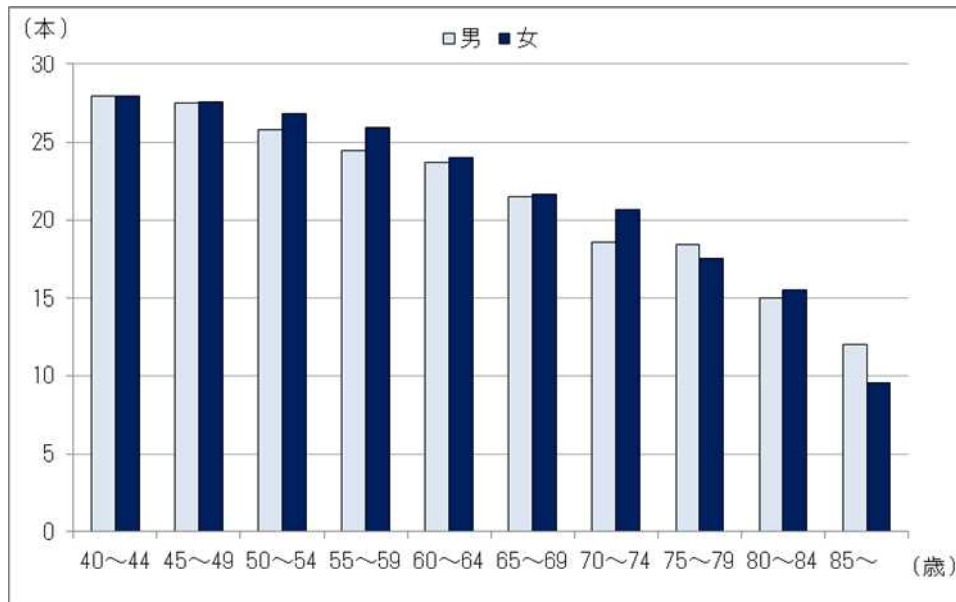


図19. 1人平均現在歯数

3. 歯肉の状況

4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合は、高齢になるにつれ増加しており（表20、図20）、年次推移を見ると、今回調査ではほぼ全ての年代で高値を示した（表21、図21）。

歯肉出血を有する者の割合は、15歳以上の年齢階級で30%を超え、30歳以上55歳未満で40%を超える（表22、図22）。

表20. 歯周ポケットの保有者の割合、年齢階級別

(%)

年齢階級 (歳)	4mm未満	歯周ポケット(4mm以上)のある者			対象歯の ない者
		総数	4mm以上 6mm未満	6mm以上	
15~19	93.9	6.1	6.1	-	-
20~24	74.3	25.7	25.7	-	-
25~29	68.6	31.4	31.4	-	-
30~34	66.9	33.1	30.2	2.9	-
35~39	60.5	39.5	33.7	5.8	-
40~44	55.1	44.9	39.4	5.5	-
45~49	55.4	44.6	40.6	4.0	-
50~54	45.5	54.1	44.5	9.5	0.5
55~59	50.6	47.8	37.5	10.3	1.6
60~64	38.7	57.9	43.6	14.3	3.4
65~69	34.9	60.5	42.3	18.2	4.6
70~74	36.9	53.6	40.4	13.2	9.5
75~79	30.2	55.3	40.3	15.1	14.5
80~84	30.6	47.7	35.6	12.2	21.6
85~	19.1	44.1	31.6	12.5	36.8

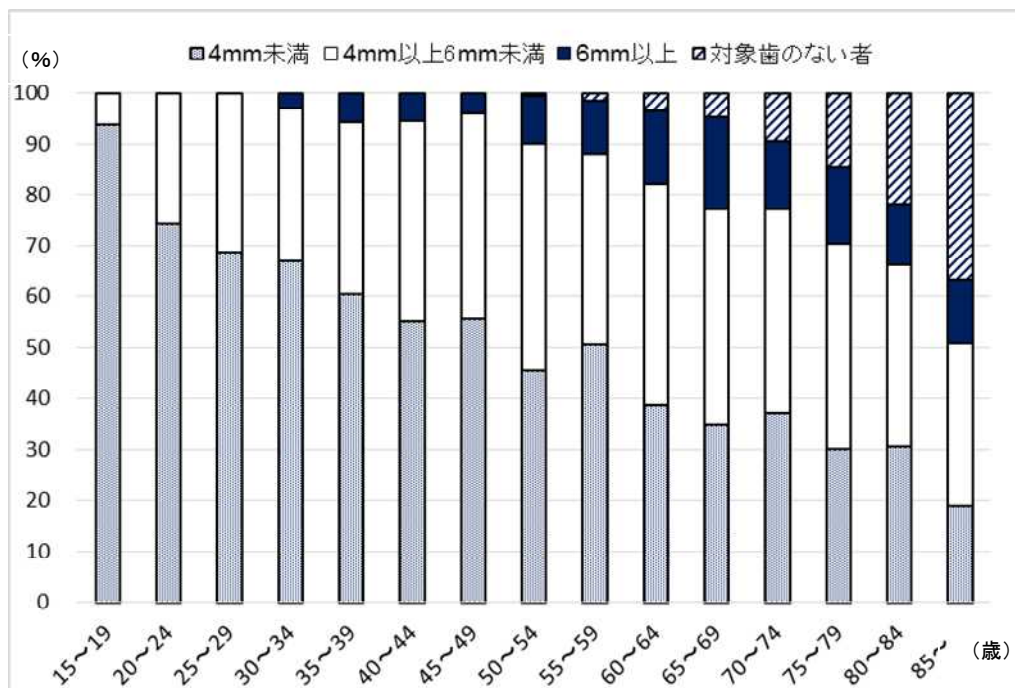


図20. 歯周ポケットの保有者の割合、年齢階級別

表21. 4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合の年次推移
(%)

年齢階級 (歳)	1999 (平成11年)	2005 (平成17年)	2011 (平成23年)	2016 (平成28年)
15～24	10.4	7.2	8.5	17.6
25～34	21.5	21.6	17.8	32.4
35～44	31.5	26.6	24.3	42.6
45～54	43.4	42.2	33.2	49.5
55～64	50.0	49.8	47.0	53.7
65～74	45.5	48.9	46.5	57.5
75～	28.0	36.5	44.9	50.6

注1) 平成11年(1999年)と平成17年(2005年)以降では、1歯あたりの診査部位が異なる。
注2) 被調査者のうち対象歯を持たない者も含めた割合を算出した。

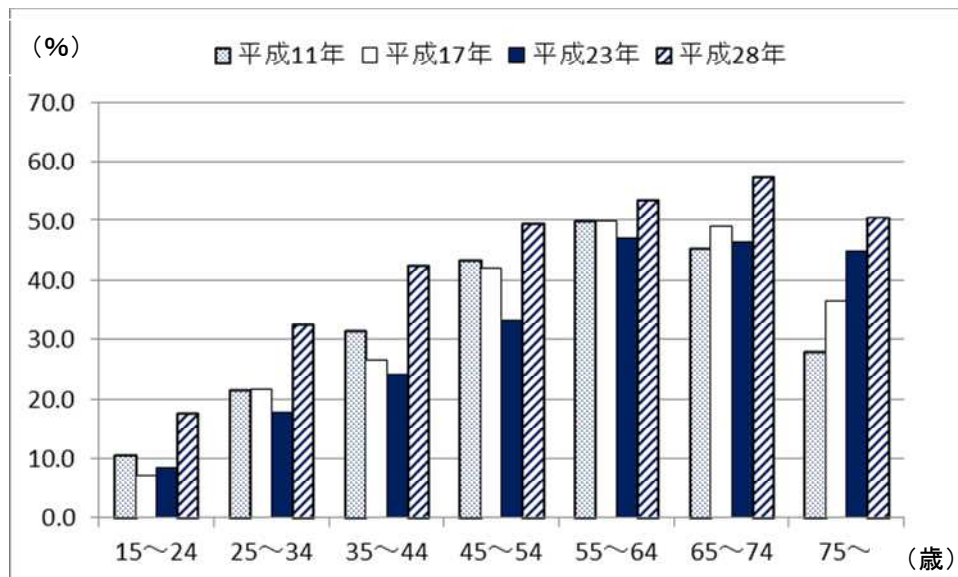


図21. 4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合の年次推移

表22. 歯肉出血を有する者の割合、年齢階級別

(%)

年齢階級 (歳)	歯肉出血		
	なし	あり	対象歯のない者
10～14	75.4	24.6	-
15～19	69.4	30.6	-
20～24	57.1	42.9	-
25～29	62.8	37.2	-
30～34	58.3	41.7	-
35～39	56.8	43.2	-
40～44	52.0	48.0	-
45～49	55.9	44.1	-
50～54	59.5	40.0	0.5
55～59	59.3	39.1	1.6
60～64	56.7	39.8	3.4
65～69	51.7	43.7	4.6
70～74	51.7	38.8	9.5
75～79	46.2	39.3	14.5
80～84	45.5	33.3	21.2
85～	30.1	33.1	36.8

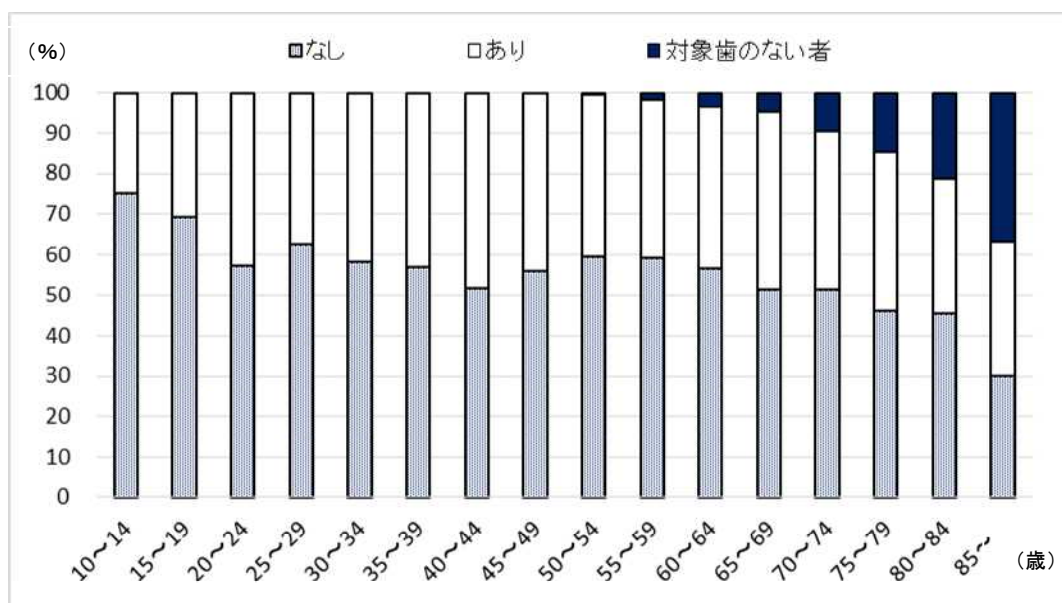


図22. 歯肉出血を有する者の割合、年齢階級別

4. 歯列・咬合の状況（12～20歳）

叢生のある者は約26%（表23、図23）、歯列に空隙のある者は約10%（表24、図24）であった。オーバーjetの状況は表25、図25、オーバーバイトの状況は表26、図26、正中のずれの状況は表27、図27に示した通りである。

表23. 歯列の状況（叢生）、年齢階級別（12～20歳）

年齢階級 （歳）	人数(人)				割合(%)			
	叢生なし	叢生あり			叢生なし	叢生あり		
		上顎のみ	下顎のみ	上下顎とも		上顎のみ	下顎のみ	上下顎とも
12～15	55	8	5	8	72.4	10.5	6.6	10.5
16～20	23	1	2	4	76.7	3.3	6.7	13.3
合計	78	9	7	12	73.6	8.5	6.6	11.3

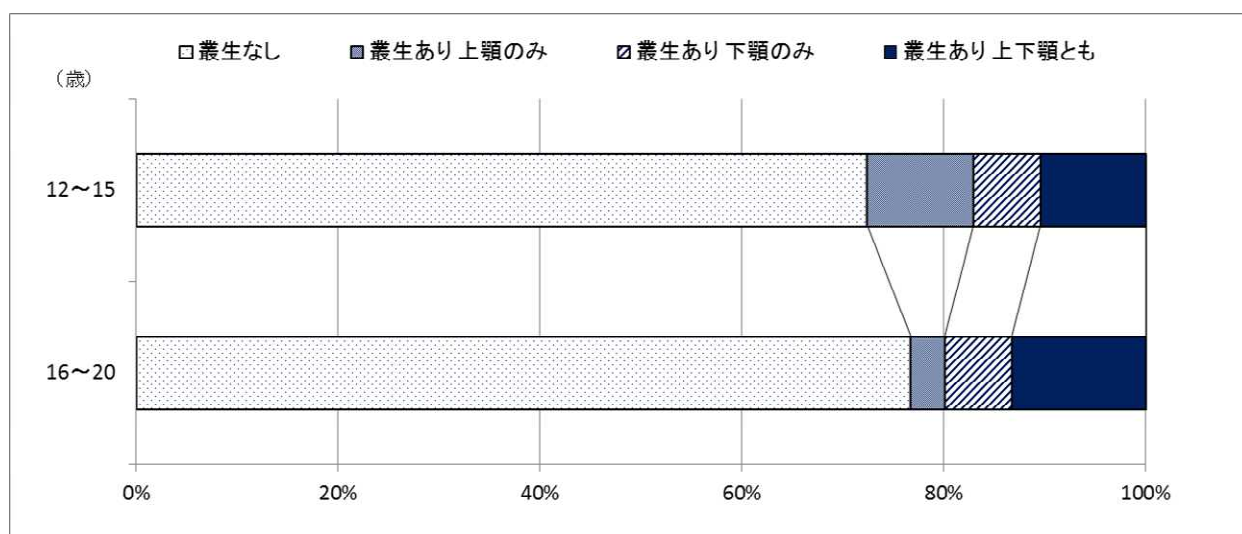


図23. 叢生の状況

表24. 歯列の状況（空隙）、年齢階級別（12～20歳）

年齢階級 (歳)	人数(人)				割合(%)			
	空隙なし	空隙あり			空隙なし	空隙あり		
		上顎のみ	下顎のみ	上下顎とも		上顎のみ	下顎のみ	上下顎とも
12～15	68	3	3	2	89.5	3.9	3.9	2.6
16～20	27	2	1	0	90.0	6.7	3.3	0.0
合計	95	5	4	2	89.6	4.7	3.8	1.9

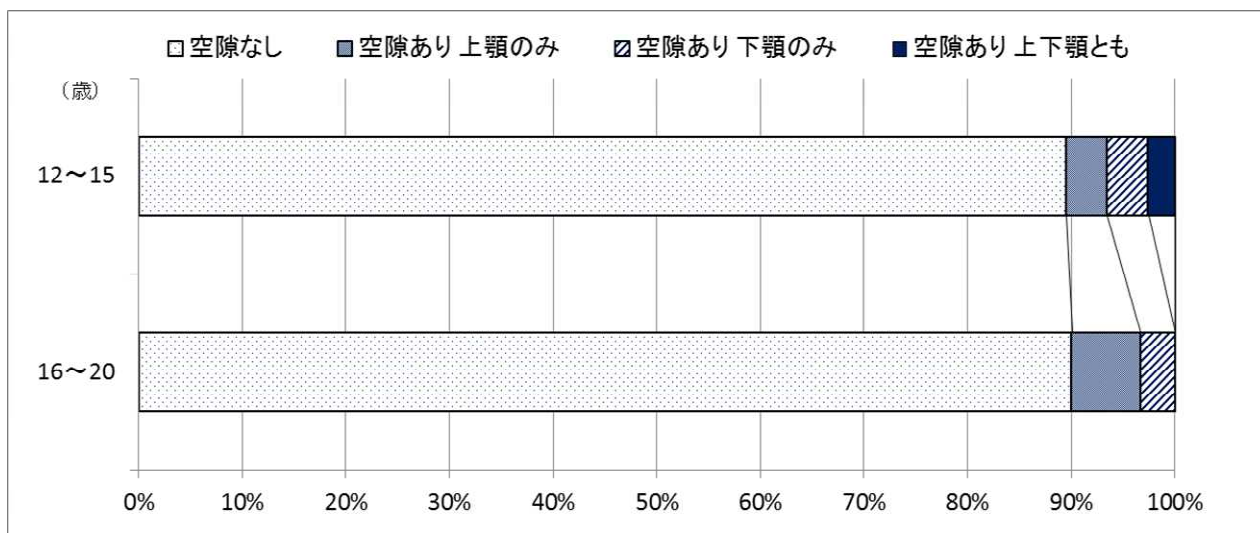


図24. 空隙の状況

表25. 咬合の状況（オーバージェット）、年齢階級別（12～20歳）

年齢階級 (歳)	オーバージェット (overjet)											
	人数(人)						割合(%)					
	-4mm以下	-3~-1mm	0mm	1~3mm	4~5mm	6mm以上	-4mm以下	-3~-1mm	0mm	1~3mm	4~5mm	6mm以上
12~15	0	1	2	43	23	7	0.0	1.3	2.6	56.6	30.3	9.2
16~20	1	0	2	15	13	0	3.2	0.0	6.5	48.4	41.9	0.0
合計	1	1	4	58	36	7	0.9	0.9	3.7	54.2	33.6	6.5

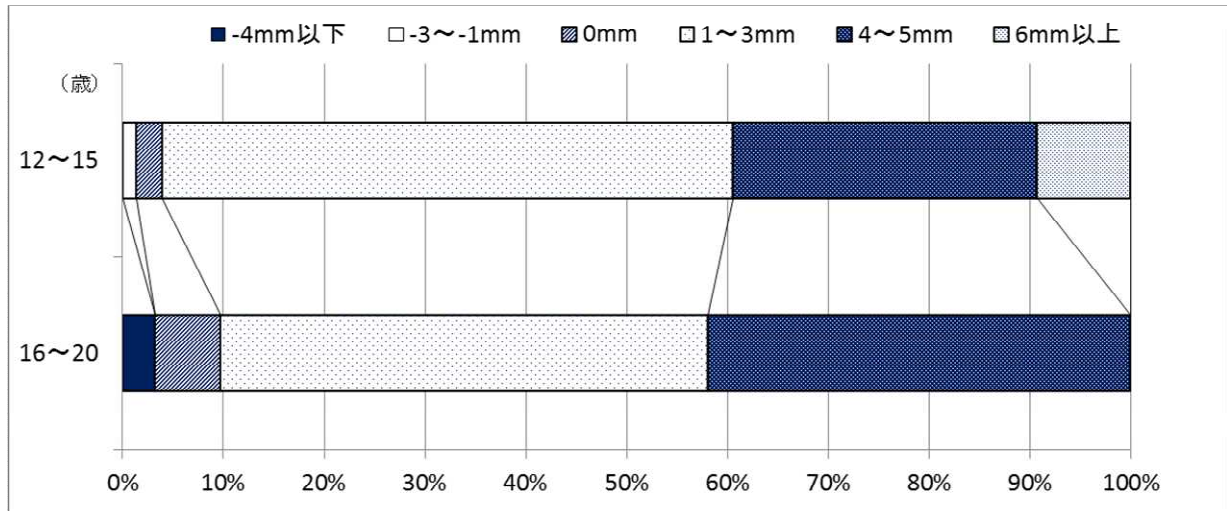


図25. オーバージェットの状況

表26. 咬合の状況（オーバーバイト）、年齢階級別（12～20歳）

年齢階級 (歳)	オーバーバイト (overbite)											
	人数(人)						割合(%)					
	-4mm以下	-3~-1mm	0mm	1~3mm	4~5mm	6mm以上	-4mm以下	-3~-1mm	0mm	1~3mm	4~5mm	6mm以上
12~15	1	1	7	45	21	2	1.3	1.3	9.1	58.4	27.3	0.0
16~20	0	0	3	20	9	0	0.0	0.0	9.4	62.5	28.1	0.0
合計	1	1	10	65	30	2	0.9	0.9	9.2	59.6	27.5	1.8

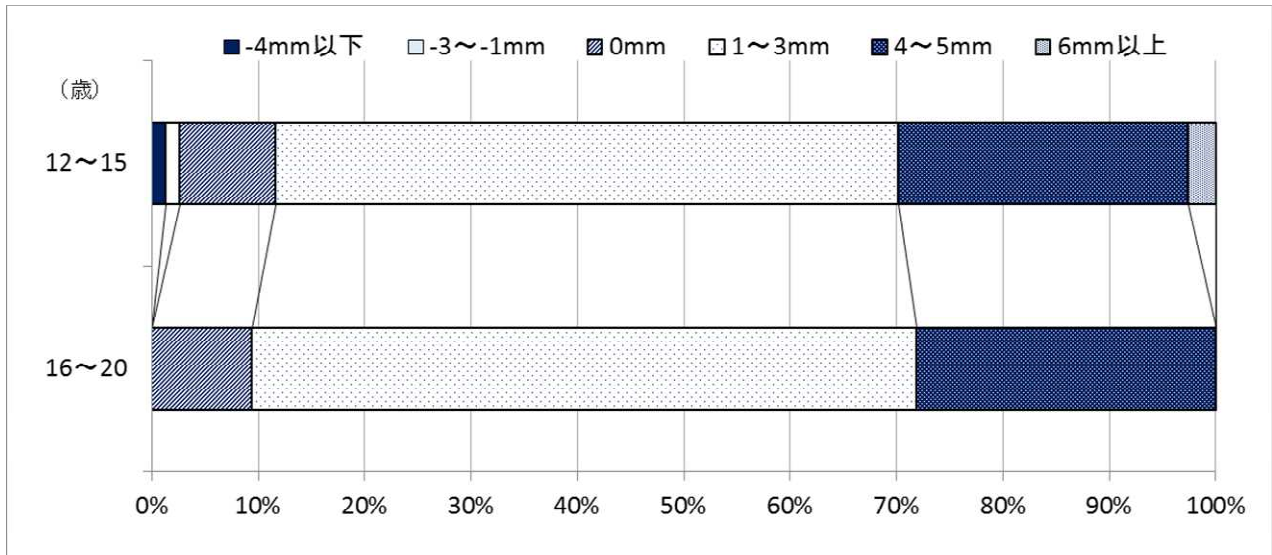


図26. オーバーバイトの状況

表27. 正中のずれ、年齢階級別（12～20歳）

年齢階級 (歳)	正中のずれ							
	人数(人)				割合(%)			
	0mm	1mm	2mm	3mm以上	0mm	1mm	2mm	3mm以上
12～15	36	11	18	12	46.8	14.3	23.4	15.6
16～20	12	8	11	1	37.5	25.0	34.4	3.1
合計	48	19	29	13	44.0	17.4	26.6	11.9

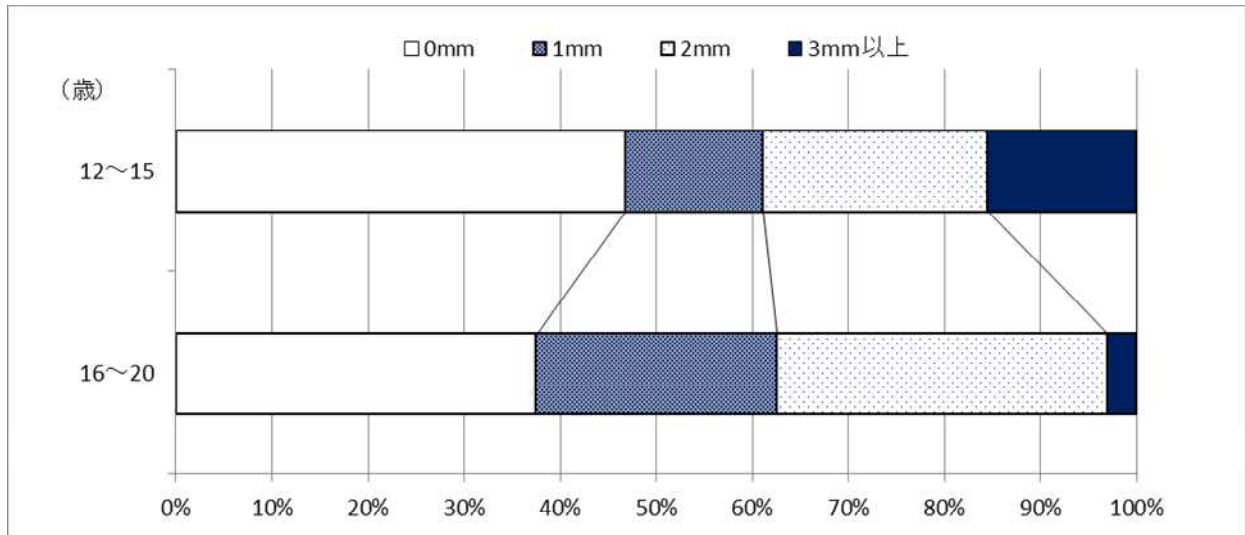


図27. 正中のずれ

5. フッ化物応用の経験 (1~14歳)

フッ化物塗布の経験のある者は62.5%、フッ化物洗口の経験のある者は13.4%、フッ化物配合歯磨剤使用の経験のある者は62.3%であった。(表28、図28)。フッ化物塗布経験者の割合は前回とほぼ同様であった(表29、図29)。

表28. フッ化物応用の経験の有無 (1~14歳)

年齢(歳)	被調査者数 ^{#1}	人数(人)						割合(%)					
		フッ化物応用の経験がある者 ^{#2}				フッ化物応用の経験がない者	わからない	フッ化物応用の経験がある者 ^{#2}				フッ化物応用の経験がない者	わからない
		フッ化物塗布	フッ化物洗口	フッ化物配合歯磨剤の使用	その他			フッ化物塗布	フッ化物洗口	フッ化物配合歯磨剤の使用	その他		
総数	440	275	59	274	2	37	37	62.5	13.4	62.3	0.5	8.4	8.4
1	37	15	0	9	1	15	2	40.5	0.0	24.3	2.7	40.5	5.4
2	27	16	0	16	1	6	1	59.3	0.0	59.3	3.7	22.2	3.7
3	35	20	1	22	0	6	0	57.1	2.9	62.9	0.0	17.1	0.0
4	25	15	0	15	0	2	2	60.0	0.0	60.0	0.0	8.0	8.0
5	41	37	6	31	0	0	1	90.2	14.6	75.6	0.0	0.0	2.4
6	44	27	5	29	0	2	4	61.4	11.4	65.9	0.0	4.5	9.1
7	34	25	5	25	0	1	3	73.5	14.7	73.5	0.0	2.9	8.8
8	43	33	8	25	0	1	3	76.7	18.6	58.1	0.0	2.3	7.0
9	32	21	7	20	0	0	3	65.6	21.9	62.5	0.0	0.0	9.4
10	22	13	6	20	0	0	1	59.1	27.3	90.9	0.0	0.0	4.5
11	32	18	9	21	0	2	2	56.3	28.1	65.6	0.0	6.3	6.3
12	29	16	7	19	0	1	5	55.2	24.1	65.5	0.0	3.4	17.2
13	18	12	3	13	0	0	1	66.7	16.7	72.2	0.0	0.0	5.6
14	21	7	2	9	0	1	9	33.3	9.5	42.9	0.0	4.8	42.9

注) 複数回答。口腔診査受診者のみ。

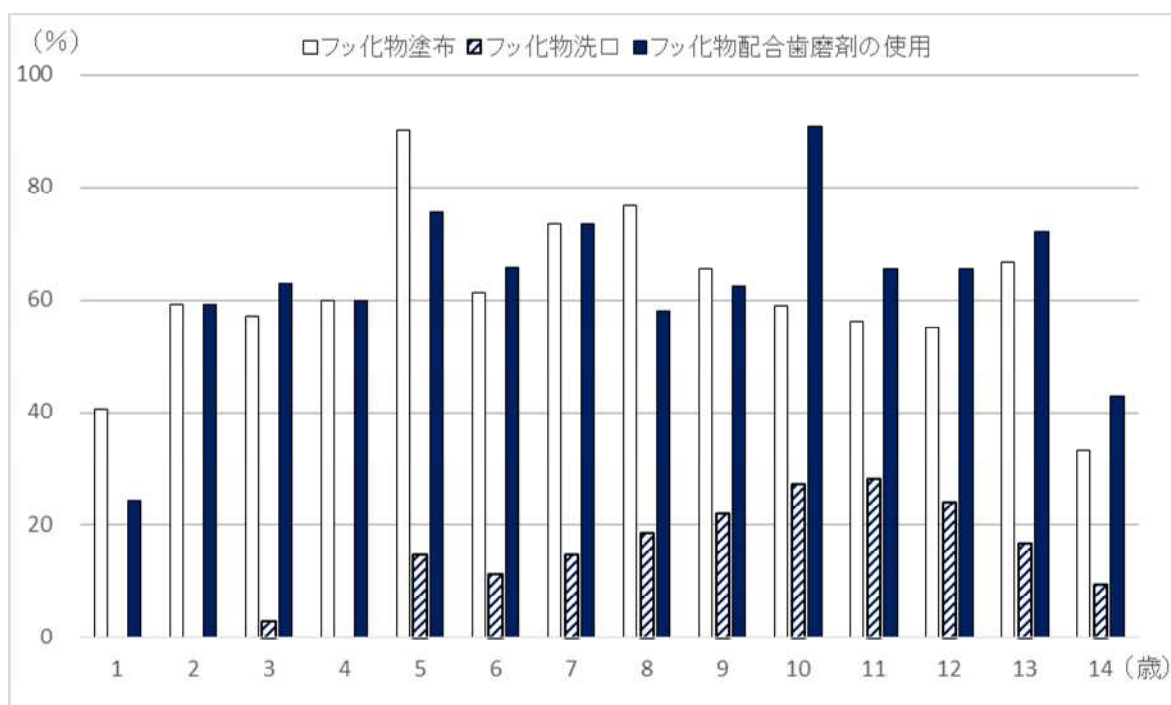


図28. 各種フッ化物応用の経験がある者の割合

表29. フッ化物塗布経験者の割合の推移（昭和44年（1969年）～2016年（平成28年））

調査年次 （年）	人数（人）				割合（％）	
	総数	受けたこと がある者	*受けたこと がない者	*わからない	総数	受けたこと がある者
昭和44年 （1969年）	5,542	334	4,744	464	100.0	6.0
昭和50年 （1975年）	4,457	500	3,518	439	100.0	11.2
昭和56年 （1981年）	3,999	891	2,687	421	100.0	22.3
昭和62年 （1987年）	3,081	972	1,731	378	100.0	31.5
平成5年 （1993年）	2,073	791	965	317	100.0	38.2
平成11年 （1999年）	1,104	464	488	152	100.0	42.0
平成17年 （2005年）	620	367	194	59	100.0	59.2
平成23年 （2011年）	535	340	150	45	100.0	63.6
平成28年 （2016年）	466	288	132	46	100.0	62.5

注）平成28年（2016年）より設問の形式が変更された

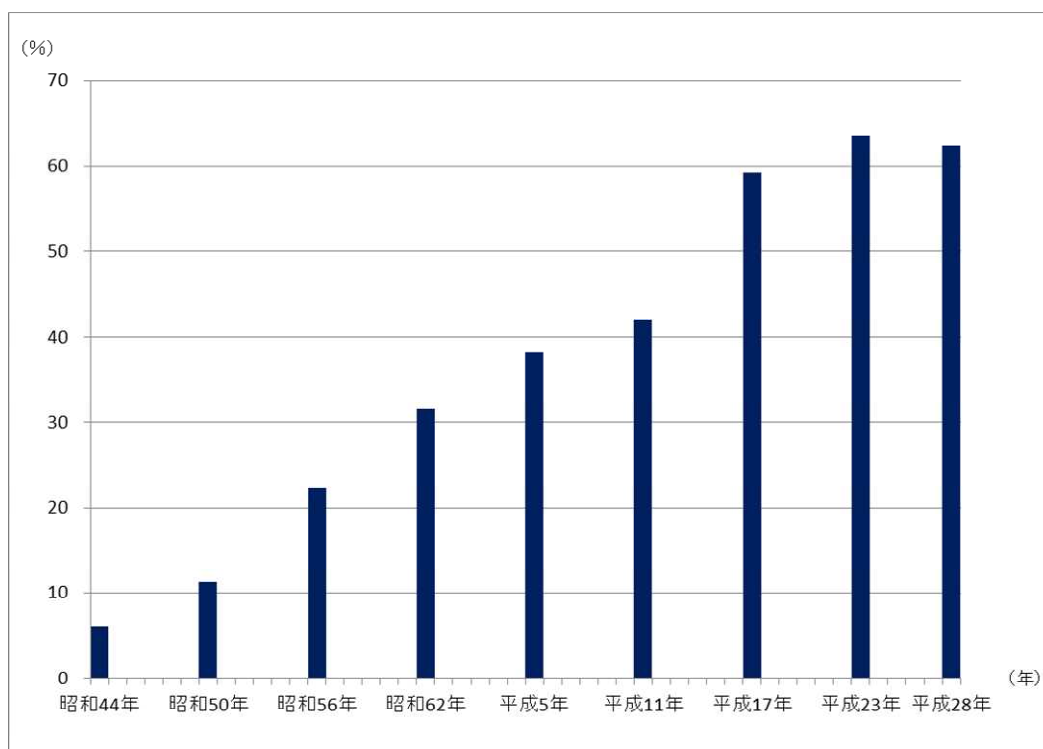


図29. フッ化物塗布経験者の割合の推移

6. 歯をみがく頻度

1歳以上の者では、毎日歯をみがく者の割合は95.3%であった。また、毎日2回以上歯をみがく者の割合は増加を続けており、平成28年は77.0%であった（表30、図30）。

表30. 歯ブラシの使用状況の推移（昭和44年（1969年）～平成28年（2016年））、総数（1歳以上）
(%)

調査年	みがかない者	ときどきみがく者	毎日みがく者					(再掲) 毎日2回以上
			毎日(総数)	1回	2回	3回以上	回数不詳	
昭和44年(1969年)	8.1	11.8	79.7	62.8	15.1	1.8	-	16.9
昭和50年(1975年)	4.3	9.2	80.7	53.4	24.6	2.6	-	27.3
昭和56年(1981年)	2.4	7.1	90.5	46.4	36.6	7.5	-	44.1
昭和62年(1987年)	1.3	5.5	93.2	38.6	41.7	13.0	-	54.6
平成5年(1993年)	1.1	3.9	94.0	33.0	44.9	16.1	-	61.0
平成11年(1999年)	1.3	2.5	95.0	28.7	47.5	18.8	-	66.3
平成17年(2005年)	1.3	2.4	94.8	25.4	48.7	20.8	-	69.5
平成23年(2011年)	1.2	1.8	95.5	21.9	48.3	25.2	0	73.5
平成28年(2016年)	0.4	1.5	95.3	18.3	49.8	27.3	-	77.0

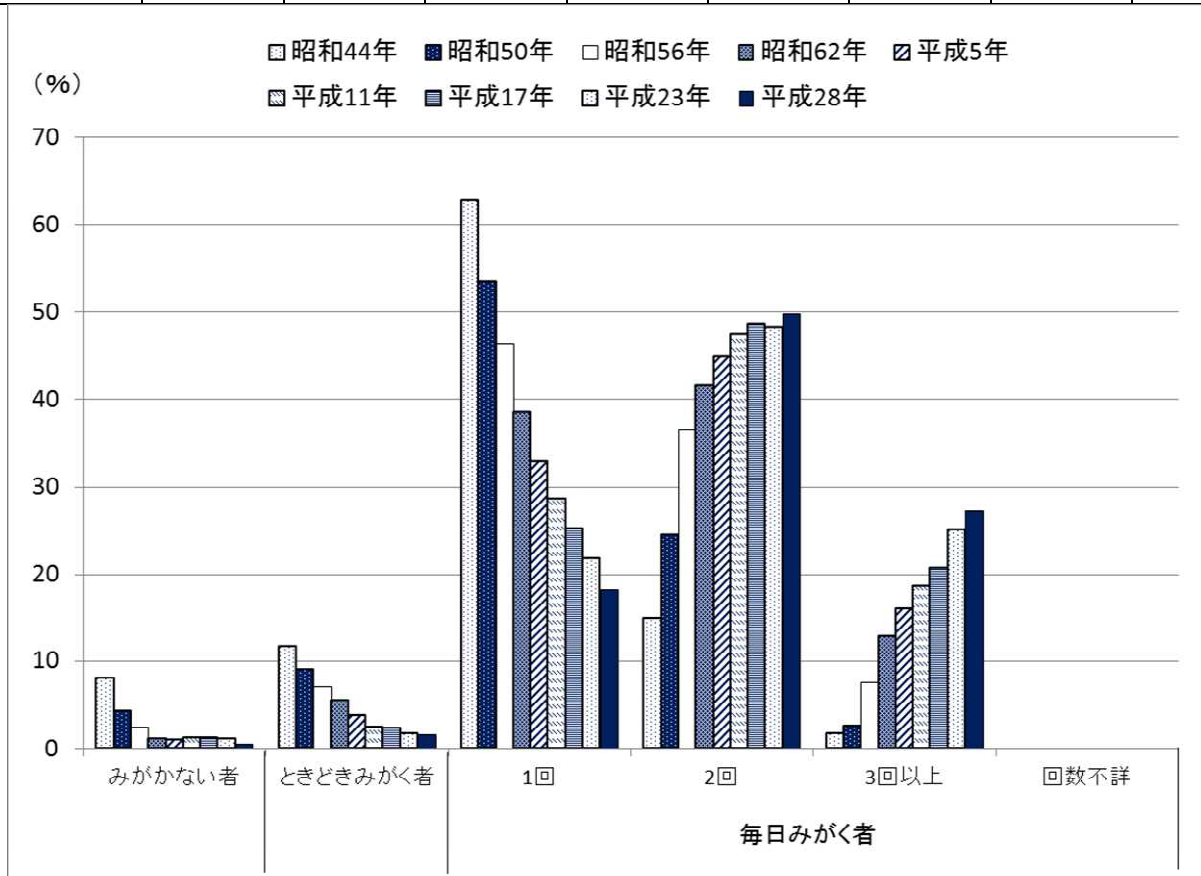


図30. 歯ブラシの使用状況の推移（昭和44年（1969年）～平成28年（2016年））、総数（1歳以上）

7. 顎関節の状況（6歳以上）

口を大きく開け閉めした時、あごの音がするか、痛みがあるかという質問に「はい」と答えた者の割合は、どちらも全体的に女性において高い傾向を示した（表31～32、図31～32）。

表31. 顎関節の雑音を自覚する者の割合、性・年齢階級別

※口を大きく開け閉めした時、あごの音がするかという質問に「はい」と答えた者の割合（%）

年齢階級 (歳)	男	女
6～9	3.8	1.4
10～14	3.1	6.9
15～19	5.3	12.5
20～24	23.5	41.7
25～29	27.0	26.5
30～34	15.9	35.8
35～39	16.7	29.0
40～44	25.8	25.5
45～49	18.2	31.2
50～54	18.5	14.3
55～59	14.0	19.5
60～64	5.8	16.4
65～69	9.4	15.9
70～74	10.3	10.2
75～79	9.0	9.8
80～84	5.1	8.8
85～	6.3	11.1

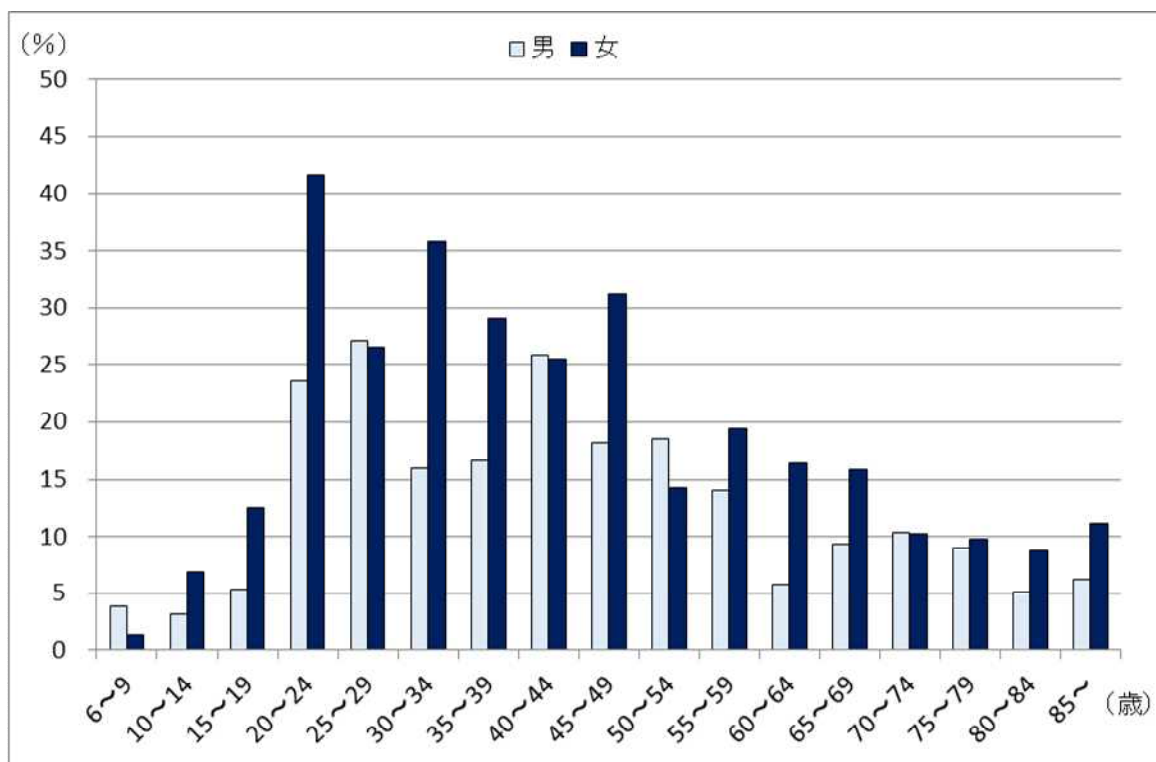


図31. 顎関節の雑音を自覚する者の割合、性・年齢階級別

表32. 顎関節に痛みを自覚する者の割合、性・年齢階級別

※口を大きく開け閉めした時、あごの痛みあるかという質問に「はい」と答えた者の割合 (%)

年齢階級 (歳)	男	女
6～9	2.5	0.0
10～14	1.6	0.0
15～19	5.3	0.0
20～24	2.9	13.9
25～29	5.4	6.1
30～34	2.3	6.3
35～39	1.5	9.7
40～44	6.2	5.7
45～49	1.3	8.0
50～54	3.7	5.0
55～59	4.0	5.2
60～64	1.4	1.9
65～69	2.9	1.2
70～74	1.6	3.1
75～79	1.9	0.6
80～84	1.0	1.6
85～	1.6	6.9

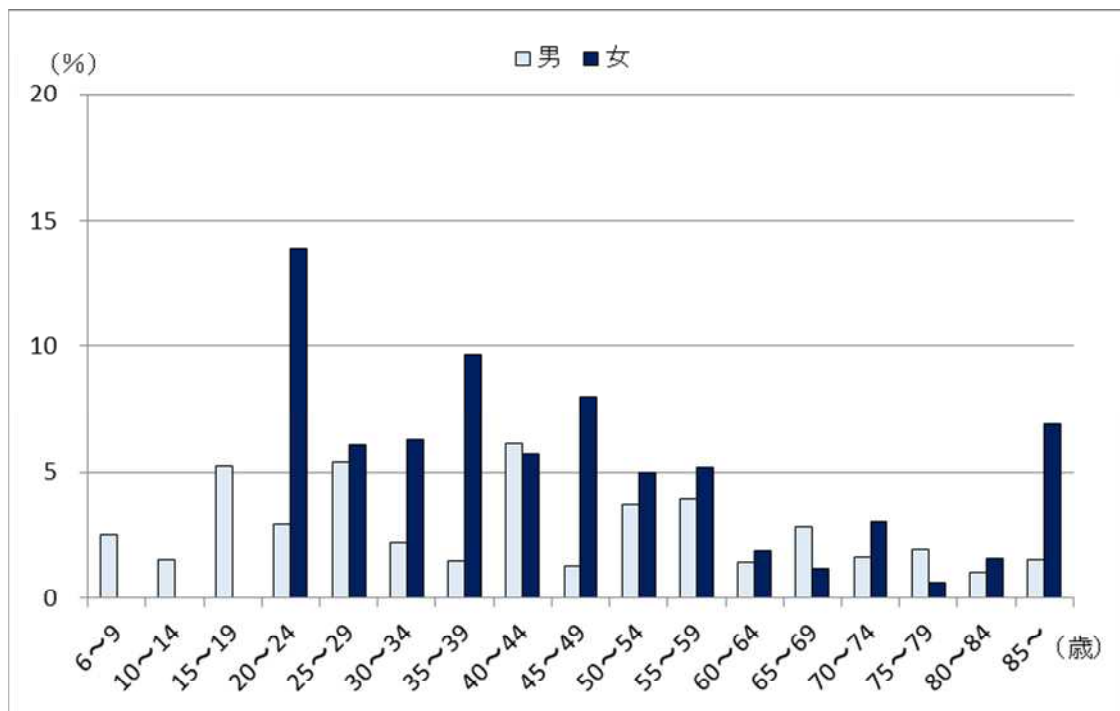


図32. 顎関節に痛みを自覚する者の割合、性・年齢階級別

8. 歯や口の状態

歯や口の状態について気になるところがないと回答した者は全体の59.0%であった。この割合は年齢階級が上がるとともに低値を示した。

「歯が痛い、しみる」または「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した者の割合は25歳以上65歳未満の年齢階級で高く、「噛めないものがある」と回答した者の割合は65歳以上75歳未満の年齢階級で10%を超え、その後の年齢階級でも高値を示した（表33、図33）。

表33. 歯や口の状態、年齢階級別

(%)

年齢階級	被調査者数	歯や口の状態について気になるところ									
		ない	総数 ^{注2}	ある ^{注1}						その他	
				歯が痛い、しみる	歯ぐきが痛い、はれている、出血がある	噛めないものがある	飲み込みにくい	味が分かりにくい	口がかわく	口臭がある	
総数 Total	6,216	59.0	41.0	12.2	11.3	7.0	1.3	1.1	8.5	9.6	8.2
1～4	200	88.0	12.0	0.5	1.0	-	-	-	-	3.0	8.0
5～14	555	83.8	16.2	4.0	2.5	0.4	-	-	0.7	2.5	7.9
15～24	390	75.9	24.1	13.6	4.6	-	-	-	0.8	3.3	6.2
25～34	448	56.3	43.8	20.1	13.8	0.7	-	0.2	4.9	6.3	9.8
35～44	788	56.1	43.9	17.9	13.3	1.6	1.4	0.5	8.0	10.9	7.9
45～54	758	58.2	41.8	17.9	13.9	2.4	0.7	0.3	6.7	9.5	6.9
55～64	920	48.3	51.7	15.7	17.3	8.5	1.3	1.0	10.2	14.7	9.1
65～74	1,207	54.8	45.2	9.8	10.4	12.5	1.7	2.0	10.9	13.0	7.5
75～84	732	52.3	47.7	5.9	12.6	16.3	2.9	2.9	16.9	9.6	9.4
85～	218	49.1	50.9	4.6	9.6	23.9	5.5	3.7	17.4	7.8	11.0

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

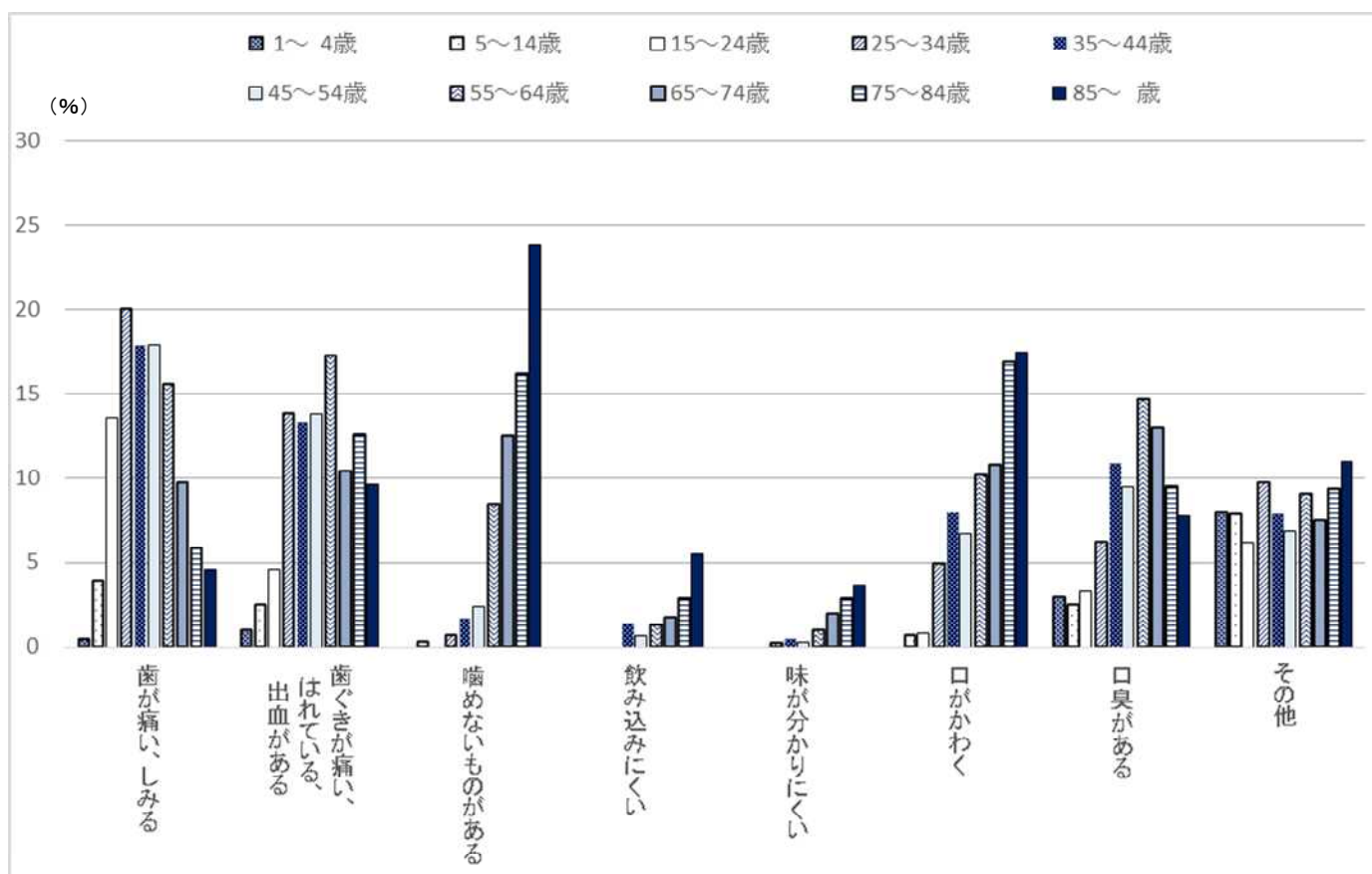


図33. 歯や口の状態、年齢階級別

9. 歯や口の清掃状況

デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者は30.6%、舌清掃を行っている者は16.6%だった。

男女別に見るとほぼすべての年代で女性の方が歯間部清掃または舌清掃割合を行っている者の割合が高かった。40～70代の女性は5割以上がデンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っていた（表34、図34・35）。

表34. 歯や口の清掃状況、性・年齢階級別

(%)

	年齢階級	被調査者数 (人)	歯ブラシを用いた歯みがきに加えておこなう歯や口の清掃				
			総数 ^{注2}	おこなっている ^{注1}			おこなっていない
				デンタルフロスや歯間ブラシを使った、歯と歯の間の清掃	舌の清掃	その他	
男	総数	2,868	53.7	30.6	16.6	6.5	53.2
	1～4	100	20.0	11.0	6.0	3.0	83.0
	5～9	158	29.1	18.4	8.9	1.9	70.9
	10～14	127	25.2	15.0	7.9	2.4	76.4
	15～19	96	26.0	12.5	9.4	4.2	77.1
	20～24	90	37.8	17.8	16.7	3.3	68.9
	25～29	87	60.9	25.3	29.9	5.7	51.7
	30～34	114	57.9	25.4	25.4	7.0	51.8
	35～39	155	60.6	31.0	23.9	5.8	48.4
	40～44	185	63.8	34.6	25.9	3.2	50.8
	45～49	161	60.2	34.8	20.5	5.0	49.7
	50～54	178	54.5	29.2	18.0	7.3	51.7
	55～59	184	57.6	37.0	14.1	6.5	48.4
	60～64	224	60.7	38.8	13.4	8.5	47.3
	65～69	337	65.3	41.2	15.4	8.6	43.0
70～74	240	69.2	37.9	19.2	12.1	38.3	
75～79	206	58.3	36.4	14.6	7.3	50.5	
80～84	135	57.8	31.1	18.5	8.1	45.9	
85～	91	36.3	20.9	8.8	6.6	61.5	
女	総数	3,410	74.5	46.3	22.3	5.9	39.2
	1～4	101	28.7	19.8	6.9	2.0	71.3
	5～9	153	31.4	23.5	5.2	2.6	67.3
	10～14	123	26.0	17.1	7.3	1.6	74.8
	15～19	110	37.3	16.4	19.1	1.8	64.5
	20～24	96	53.1	22.9	24.0	6.3	59.4
	25～29	85	77.6	36.5	36.5	4.7	42.4
	30～34	164	75.0	39.6	31.1	4.3	36.0
	35～39	191	80.6	48.7	28.3	3.7	33.0
	40～44	263	88.6	54.0	30.0	4.6	30.8
	45～49	215	85.1	54.0	24.2	7.0	32.6
	50～54	212	81.1	54.7	21.7	4.7	32.1
	55～59	240	93.3	63.3	22.1	7.9	24.6
	60～64	276	85.1	60.9	19.6	4.7	30.8
	65～69	373	92.2	57.4	25.2	9.7	28.4
70～74	269	86.6	54.3	24.5	7.8	34.6	
75～79	242	84.7	52.5	25.6	6.6	30.2	
80～84	165	63.0	37.0	18.8	7.3	44.8	
85～	132	49.2	23.5	15.9	9.8	56.8	

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

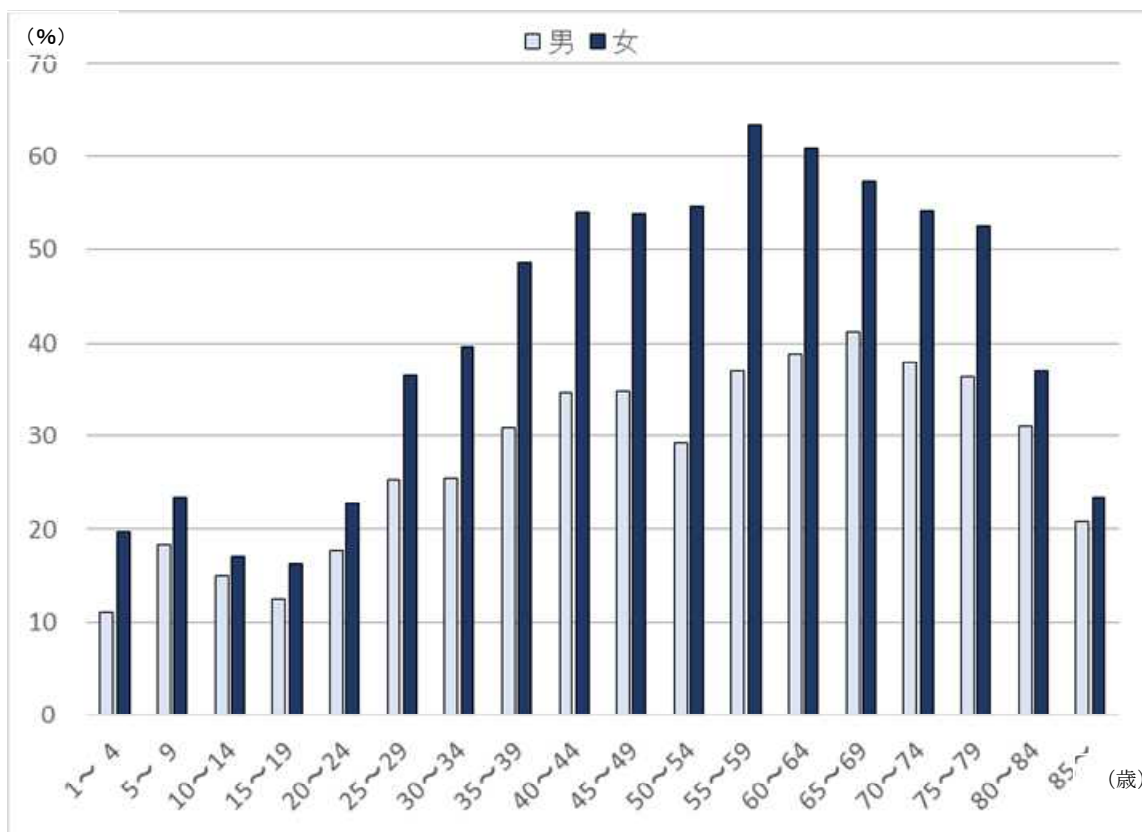


図34. デンタルフロスや歯間ブラシを使った、歯と歯の間の清掃を行っている者の割合、性・年齢階級別

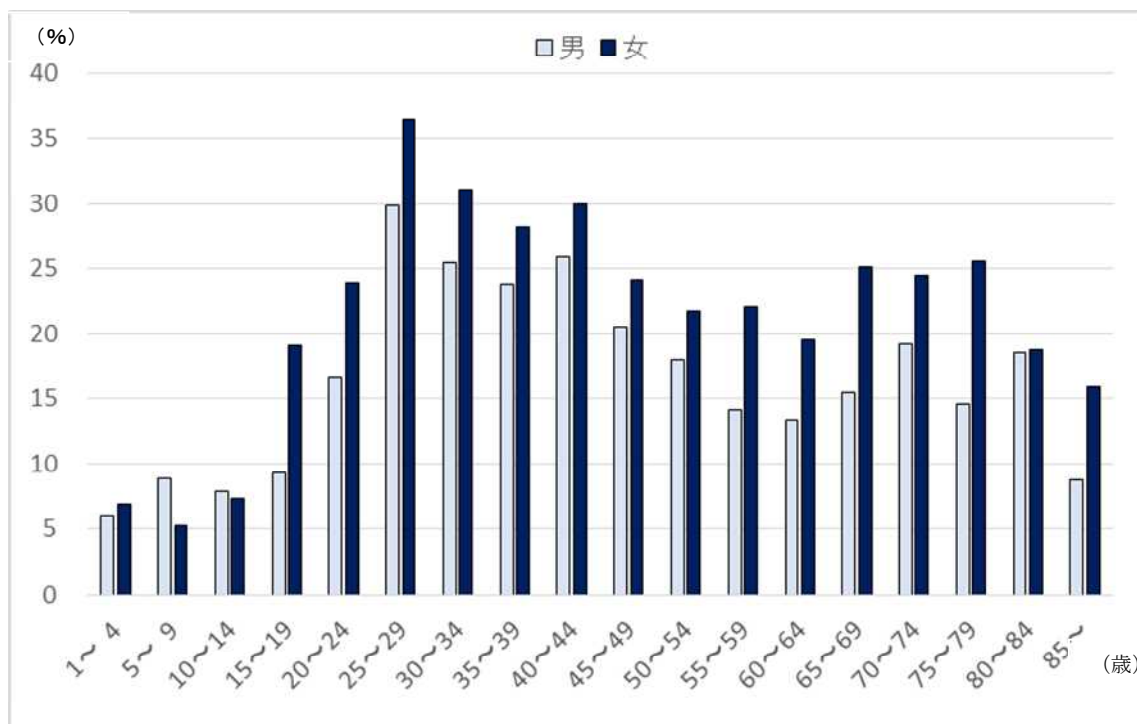


図35. 舌の清掃を行っている者の割合、性・年齢階級別